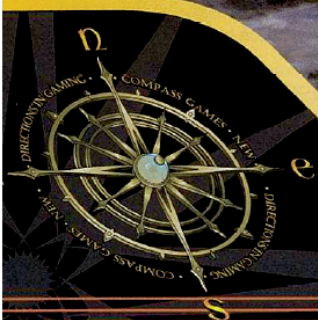


# BITTER WOODS

THE BATTLE OF THE BULGE

DESIGNER EDITION

## PLAYER'S HANDBOOK



**Compass Games**  
*New Directions in Gaming*

日本語解説書



## DESIGNER EDITION BITTERWOODS

## プレイヤーズ・ハンドブック

## 目次 [TABLE OF CONTENTS]

## ゲーム・プレイ、シナリオ、歴史的記事 [Game Play, Scenarios and Historical Articles]

- 39. 6ターン・トーナメント・シナリオ
- 40. 8ターン・トーナメント・シナリオ
- 41. パットンのバスターニュ救援シナリオ
- 42. フォン・ルントシュテットのマルティン計画シナリオ
- 43. 南肩部シナリオ
- 44. 突出部の掃討シナリオ
- 45. 拡張キャンペーン・ゲーム
- 46. 早期アルデンヌ攻勢シナリオ
- 47. カンプフグルッペ・パイパー歴史論文
- 48. アルデンヌの砲兵歴史論文

## 39. 6ターン・トーナメント・シナリオ—44年12月16日

以下のシナリオは、数時間で完了できるゲームで、全てのルールを探索することを望むプレイヤー諸氏を目的にしています。加えて、このシナリオは、トーナメント対面プレイに理想的です。マップとカウンターその他、3枚のプレイヤー補助カード：チャートと表カード、ドイツ軍の登場序列カード、連合軍の登場序列カードがプレイに要求されます。

## 39.1 ゲームの長さ [Game Length]

シナリオは、ドイツ軍の16日AMターンで開始され、連合軍の18日PMターンの完了時に終了します。全ての選択ルールとパイパー・ヴァリアント・ルールが有効です。

## 39.2 勝利条件 [Victory Conditions]

ドイツ軍プレイヤーは、下記目標の3又は4つを完遂することによって勝利します。連合軍プレイヤーは、もしもドイツ軍プレイヤーが3つ未満の目標を達成すると勝利します。

- a. 燃料集積所の占領
- b. バスターニュ [Bastogne] の占領
- c. ノヴィル [Noville] の占領
- d. スターヴロー [Stavelot] の占領
- e. ストゥーモン [Stoumont] の占領
- f. トロワ・ポン [Trois Points] の占領
- g. オイペン [Eupen] の占領
- h. スフシャトー [Neufchâteau] の占領
- i. パーカーの交差点（ヘクス2417）の占領
- j. ウルト [Ourthe] 川橋頭堡（ヘクス2722、3023、3126）の占領
- k. スパ [Spa] の占領
- l. 12以上の連合軍ユニットを除去する。
- m. 非歩兵クラス・ユニットの損失が3以下。

占領とは、補給状態にかかわらず、連合軍の18日PMターンの後にヘクスを占めていると定義されます。

## 39.3 ドイツ軍の自動的勝利 [Automatic German Victory]

上記を除いて、ドイツ軍プレイヤーがVdH中隊以外の陸上ユニットを3つのリエージュ [Liege] ヘクスのいずれかに進入させると、シナリオは直ちにドイツ軍の自動的勝利で終了します。

## 40. 8ターン・トーナメント・シナリオ—44年12月16日

以下のシナリオは、ドイツ軍がアルデンヌを突破する試みの初動の再現を意図します。これは、おそらくプレイが夕方までかかり、電子メールのプレイに適すようデザインされました。トーナメント対面プレイにも向いています。マップとカウンターその他、3枚のプレイヤー補助カード：チャートと表カード、ドイツ軍の登場序列カード、連合軍の登場序列カードがプレイに要求されます。

## 40.1 ゲームの長さ [Game Length]

シナリオは、ドイツ軍の16日AMターンで開始され、連合軍の19日PMターンの完了時に終了します。全ての選択ルールが有効です。

## 40.2 勝利条件 [Victory Conditions]

ドイツ軍プレイヤーは、下記目標の4つ以上を完遂することによって勝利します。連合軍プレイヤーは、もしもドイツ軍プレイヤーが4つ未満の目標を達成すると勝利します。

- a. 燃料集積所の占領
- b. バスターニュ [Bastogne] の占領
- c. ストゥーモン [Stoumont] の占領
- d. トロワ・ポン [Trois Points] の占領
- e. オイペン [Eupen] の占領
- f. スフシャトー [Neufchâteau] の占領
- g. パーカーの交差点（ヘクス2417）の占領
- h. ウルト [Ourthe] 川橋頭堡（ヘクス2722、3023、3126）の占領
- i. スパ [Spa] の占領
- j. 18以上の連合軍ユニットを除去する。
- k. 非歩兵クラス・ユニットの損失が3以下。

占領とは、補給状態にかかわらず、連合軍の19日PMターンの後にヘクスを占めていると定義されます。

## 40.3 ドイツ軍の自動的勝利 [Automatic German Victory]

上記を除いて、ドイツ軍プレイヤーがムーズ川西のマップ端から、合計3つの補給下の機械化ユニット内1つは装甲でなければならず（装甲師団に相当）—を退出させたら、シナリオはドイツ軍の自動的勝利で直ちに終了します。

## パットンのバスターニュ救援シナリオ—44年12月22日

以下のシナリオは、バスターニュで包囲された第101空挺師団を救援するための、パットン攻勢の「混乱」を演出します。両プレイヤーは、マップの異なる地域内で攻勢と防御を行わなければなりません。第6装甲軍と米第1軍の大部分が除かれるため、減少した数のユニットを持ちます。これは、プレイヤーに多くの落とし穴を持つ、良く調律されたシナリオのプレイを提供します。マップとカウンターその他、3枚のプレイヤー補助カード：チャートと表カード、裏面にパットンのバスターニュ救援シナリオ・プレイヤー補助カードを持つ、パットンのバスターニュ救援シナリオ・セットアップ・カードがプレイに要求されます。

## 41.1 状況報告：44年12月21～22日

**第6装甲軍：**北部でのドイツ軍の前進は、ストゥーモン、スターヴロー、トロワ・ポン、エルゼンボルン尾根で立ち往生していました。パイパーとSS師団は最良の米軍師団の大部分の注意を引きつけています。

**第5装甲軍—サン・ヴィット [St. Vith]：**新米の第106師団と脆弱な第14機甲騎兵は、圧倒されています。第7及び第9機甲師団の構成部隊は頑強に抵抗していましたが、サン・ヴィットの陥落は差し迫っていました。間もなく、多数の強力なドイツ軍部隊が西へ矛先を向けるでしょう。

**第5装甲軍—フレイチュア [Freiture] とオットン [Hotton] の間：**第116装甲師団は、ラ・ロッシュ近郊の渡河点を占領してウッフアリーズを通過し、オットン、マンヘイ、フライチュアを脅かしました。ラ・ロッシュは無防備でしたが、食い止めるために第3機甲師団の一部が南から移動していました。一週間のノンストップの活動の後、ドイツ軍は休息と再補給のため、1日全日停止しました。サムレーで占領された米軍の補給集積所は、思わぬクリスマスの贈り物でした。

**第5装甲軍—ウルト川の西支隊：**ベルトーネ (2623) とエルブモン (2925) を介してバスターニュを迂回した第2装甲師団は、オルトゥーヴィル (2924) でウルト川を渡り、テンヌヴィル (3023) に橋頭堡を確立しました。一方、装甲教導師団の一部は、バスターニュ

の南を迂回し、モイレ [Moirey] (3127) の北でピロンプレ [Pronpre] 近郊の橋梁を捕獲して橋頭堡を確立しました。マルシェ [Marche] の第 84 歩兵師団を除き、ウルト川からムーズ川まで連合軍はほとんど存在しません。しかし、ドイツ軍は停止しなければなりません！ 兵士たちは休まなければならず、燃料とあらゆる種類の補給が先鋒に追いつかなければなりません。

**第5装甲軍—バストーニュ** [Bastogne]: 古参の第 26 歩兵師団は東部戦線からのエリート師団で、装甲教導師団の一部と重要な交差点の町であるバストーニュを包囲していました。この町とその防御側は 12 月 20 日以来孤立していましたが、フォン・マントイフェル将軍は激怒し、彼は同時にどこにでもいるように見えました。彼は先鋒の背後に続いている部隊による町の奪取を望みました。自身の装甲師団は、西方へ移動させたかったのです。

**第7軍—ザウアー川**: 第5降下猟兵師団はマルトランジュ [Martelange] を占領し、その駆逐戦車は戦闘配置についていました。町の近郊にある橋梁は、第5 FJ が接近すると米軍第 299 工兵大隊によって爆破されました。第5 FJ は、パットン第3軍の矛先に触れることになります。第7軍の残りは、ハイダーシェイド [Heiderscheid] からエヒタナハ [Echternach] まで遙か東に展開し、パットンが突出部の根元でドイツ軍の補給を断ち切らないようにしていました。

#### 41.2 シナリオ・パラメーター [SCENARIO PARAMETERS]

シナリオはドイツ軍の 22 日 AM ターンで開始し、連合軍の 26 日 PM ターンに終了します。全ての選択ルールとドイツ軍の軍砲兵ヴァリアント、ルール項目 37.1 (軍レヴェル砲兵アセット) が有効です。射撃済のドイツ軍砲兵ユニットはありません。

ドイツ軍プレイヤーは、サムレー [Samrée] の燃料集積所を捕獲しています。燃料欠乏表は使用しません。

以下の橋梁は、シナリオの開始時に爆破されています。: 0533、2432、2532。シナリオは、バストーニュ [Bastogne] 内に連合軍の要塞を持ち、その防御側は非補給状態で開始します。

両陣営のユニット開始位置は、パットンのバストーニュ解放シナリオのセットアップ・カード上に示されます。カード上に指定されるごとく、多数のユニットが減少戦力で、いくつかは陣地を占めます。第6装甲軍エリア内に位置したドイツ軍と米軍のユニットは列記されず、これらはこのシナリオに参加しません。

連合軍ユニットは、補給源 P と Q から補給をたどれますが、盤の北東四分円内のドイツ軍戦闘ユニットの存在により、補給源 P と Q からの連合軍補給道路は、ヘクス 2602、2603、2606 を西方へ通過している道路を介してのみ使用可能です。

#### 41.3 マップの制限 [MAP RESTRICTIONS]

マップの北東四分円内の第6装甲軍地域で発生している作戦は、このシナリオの一部としてプレイされません。第6装甲軍地域への両陣営ユニットの進入は制限されます。もしもユニットが移動又は退却ルールのために第6装甲軍地域内へ退却することを強制されたら、その地域内で交戦状態となり、ゲームから取り去られます。

具体的には、ユニットはサン・ヴィット [St. Vith] からポトー [Poteau]、ヴィエルサルム [Vielsalm] へ、ヴィエルサルム内、ヴィエルサルムとウェルボモン [Werbomont] との間の退却線列内、ヘクス 2412 と 2512 内、ウェルボモン内、ウェルボモンの北へ向かう全ヘクス内 (例えば、2611 と 2601) の道路に沿って移動できます。この境界を越えてマップの北東四分円内へ行けるユニットはありません。この境界は、パットンのバストーニュ救援シナリオ・プレイヤー補助カード上に描かれています。

#### 41.4 ドイツ軍の増援 [GERMAN REINFORCEMENTS]

ドイツ軍の 23 日 AM の増援と第 167 国民擲弾兵師団は、このシナリオでは常に使用可能です (8 ユニット)。加えて、パットンのバストーニュ救援ランダム・イベント表の結果として、他のドイツ軍ユニットが参加する可能性があります (41.11)。

#### 41.5 ドイツ第7軍 [GERMAN 7TH ARMY]

ドイツ第7軍に割当てられた機械化ユニットには、5/15 落下傘連隊、総統擲弾兵旅団、第 15 装甲擲弾兵師団を含みます。これらの

ユニットの唯一の配置制限は、上記で述べた第6装甲軍地域へ進入できないことです。その他の全てのドイツ軍機械化ユニット、開始時と増援は、第5装甲軍へ割当てられます。

#### 41.6 ドイツ第5装甲軍と OOB の制限

[GERMAN 5TH PANZER ARMY and OOB RESTRICTIONS]

ドイツ軍の 22 日 AM ターンは、一定の第5装甲軍先鋒のみが移動できます。第2装甲師団と第 116 装甲師団の 6 個連隊は、ドイツ軍の 22 日 AM ターンに半分の移動力 (2MP) を持ちます。移動する 6 個連隊のそれぞれは、ユニットが開始したヘクス列の東のヘクス列内でターンを終了できません。もしもユニットが攻撃したら、これらは完全戦力で攻撃します。その他のドイツ軍ユニットは、移動又は攻撃ができません。

シナリオの開始時、装甲教導師団の 4 つの機械化ユニットのみが、バストーニュ/ウィルツ地域内の連合軍ユニットを罰則なしで攻撃できます。その他の第5装甲軍の機械化ユニット (開始時又は増援) は、ドイツ軍の北又は西への前進を越えることが制限されます。もしも装甲教導師団以外の第5装甲軍の機械化ユニットが、第5装甲軍の制限が解除される前にバストーニュ/ウィルツ地域内で攻撃されたら、ドイツ軍プレイヤーはバストーニュの占領又は孤立についてのいかなる勝利ポイントも放棄します。

一定のランダム・イベントは、装甲教導師団以外の機械化ユニットが、第5装甲軍の制限が解除される前にバストーニュ/ウィルツ地域内で自由に作戦することを認めます。

バストーニュ/ウィルツ地域とは、以下のごとく定義されます。: ヘクス列 31 の東でウルト川の南方支流の南と、2021 から 0131 へ走る対角線列以南のヘクス。例えば、クレルヴォー [Clervaux] は、バストーニュ/ウィルツ地域から外れます。バストーニュ/ウィルツ地域は、パットンのバストーニュ救援シナリオ・プレイヤー補助カード上に描かれています。

#### 41.7 第5装甲軍の制限が解除される時

[WHEN 5TH PANZER ARMY RESTRICTIONS ARE LIFTED]

もしも、いずれかのターンの補給フェイズ中に、連合軍がバストーニュ内の連合軍戦闘ユニットに補給道路をたどることができたら、第5装甲軍の制限は全ての機械化ユニットについて解除されます。

第5装甲軍の制限は、米第3軍がザウアー [Sauer] 川を越えてどこかに橋頭堡を確立しているドイツ軍ターンの開始時に、第9装甲師団について解除されます。第9装甲師団は、23 日 AM ターンの前に使用不能です。橋頭堡は、連合軍戦闘ユニットがザウアー川の北にある以下の橋梁ヘクスのいずれかに進入したら、直ちに米第3軍のために確立されます。: 2532、2432、1730、1331、1230、0931、0532。橋頭堡は、たとえ橋梁ヘクス又は複数の橋梁ヘクスがドイツ軍によって奪回されても確立されたものと見なされます。

#### 41.8 連合軍 OOB の制限 [ALLIED OOB RESTRICTIONS]

モンティの指示に従い、米第7機甲師団の 3 つの戦闘団は、22 日 AM ターンにウェルボモン [Werbomont] へ移動してこの町を守備しなければなりません。これらは、24 日 AM ターンにウェルボモンを自由に離れることができますが、もしもドイツ軍ユニットが移動してこの町に隣接したら、直ちに解放することができます。

アメリカ軍の 22 日 AM 増援として、C と D へ登場が指定されたユニットは、D2433 又は D2335 でのみ登場できます。この攻撃部隊は、4CCA、4CCB、4CCR、26/101、26/104、26/328、193 砲兵、203 砲兵から構成され、パットン将軍によって直接北のバストーニュ方面へ送られます。南端の B、C、D から進入するよう指定された他のアメリカ軍の増援は、ヘクス 2435 の盤西から登場することを禁じられます。

連合軍航空機ユニットの数は、12 月 23 日より後の各 6 ターンについて 2 ずつ減少させられます。この減少は、第6装甲軍エリア内で作戦している連合軍航空支援のためです。

米軍第5機甲師団は、モンティの機甲予備に置かれており、このシナリオについては、ランダム・イベントによって解放され得る (41.11 を参照) 5CCR を除き解放されません。他の全アメリカ軍地上増援は、このシナリオについて使用可能です。11/29 とモンティ指揮官ユニット以外のイギリス軍ユニットは、ムーズ川を渡るこ



とができません。

#### 41.9 自動的勝利 [AUTOMATIC VICTORY]

ドイツ軍プレイヤーは、もしもドイツ軍地上戦闘ユニットがムーズ川を越えたいずれかの町、又はムーズ川の流れて隣接するいずれかの町（例えば、メジエール [Mezieres]、イヴォワール [Yvoir]）へ進入すると自動的に勝利します。補給状態は無関係です。連合軍プレイヤーは、もしも連合軍地上戦闘ユニットがサン・ヴィット [St. Vith] に進入するか、又はウール川の6つの町の2つを同時に占領したら自動的に勝利します。補給状態は無関係です。

#### 41.10 シナリオ勝利条件 [SCENARIO VICTORY CONDITIONS]

自動的勝利を除き、ドイツ軍プレイヤーは8勝利ポイント以上を獲得することで勝利します。それ未満では、連合軍が勝利します。勝利は、連合軍の26日PMターンの終了時に評価されます。

ドイツ軍プレイヤーは、パットンのバスターニュ救援シナリオ・プレイヤー補助カード上に図で示されるごとく、以下の勝利ポイントを受け取ります。:

**A.** ドイツ軍プレイヤーは、補給下の地上ユニットでラ・ロッシュ [La Roche]、ヴィエルサルム [Vielsalm]、ウィルツ [Wiltz] を占領したら各1勝利ポイントを受け取ります。

**B.** ドイツ軍プレイヤーは、補給下の地上戦闘ユニットでマンヘイ [Manhay]、ウェルボモン [Werbomont]、エワイユ [Aywaille] を占領したら各3勝利ポイントを受け取ります。もしも占領しても補給下でなければ、それらは各2勝利ポイントに相当します。

**C.** ドイツ軍プレイヤーは、補給下の地上戦闘ユニットでヘクス列30の西でレセーロム [Lesse-L Momme] 川の北の町を占領したら各3勝利ポイントを受け取ります。もしも占領しても補給下でなければ、それらは各1勝利ポイントに相当します。マルシェ [Marche]、オットン [Hotton]、デュルビュイ [Durbuy]、ウッフエ [Ougget]、ナンドウラン [Nandurin]、オエエ [Ohey]、セル [Celles]、ロシュフォール [Rochefort] がこのカテゴリーです。

**D.** ドイツ軍プレイヤーは、補給下の地上戦闘ユニットでヘクス列30の西でレセーロム [Lesse-L Momme] 川の南の町を占領したら各2勝利ポイントを受け取ります。もしも占領しても補給下でなければ、それらは各1勝利ポイントに相当します。ヌフシャトー [Neufchateau]、レコグネ [Recogne]、サン・ユベール [St. Hubert]、ウェリン [Wellin]、ボーレン [Beaurain]、ガディンヌ [Gedinne]、パリウ [Paliseul]、ベルトリ [Bertrix] がこのカテゴリーです。シュニー [Sugny]、ブイヨン [Bouillon]、エルブモン [Herbeumont] について与えられるポイントはありません。

**E.** ドイツ軍プレイヤーは、連合軍の26日PMターンの終了時に地上戦闘ユニットでバスターニュ [Bastogne] を占領したら3勝利ポイントを受け取ります。ユニットの補給状態は無関係です。

**F.** ドイツ軍プレイヤーは、もしも連合軍プレイヤーがバスターニュを占領しても、26日PMターンの終了時に町へ補給道路をたどれなければ2勝利ポイントを受け取ります。

**G.** ドイツ軍プレイヤーは、もしも連合軍26日PMターンの終了時に、連合軍が補給下の地上戦闘ユニットでメルシュ [Mersch] を占領していなければ1勝利ポイントを受け取ります。同様に、もしも連合軍26日PMターンの終了時に、連合軍が補給下の地上戦闘ユニットでコンスドルフ [Consdorf] を占領していなければ1勝利ポイントを受け取ります。

**H.** ドイツ軍プレイヤーは、もしも連合軍26日PMターンの終了時に、連合軍が補給下の地上戦闘ユニットでウッフアリーズ [Houffalize] 又はクレルヴォー [Clervaux] を占領していたら2勝利ポイントを失います。

**I.** ドイツ軍プレイヤーは、もしも25日AMの前のいずれかの補給フェイズ中に、連合軍がバスターニュ内の戦闘ユニットへ補給道路をたどることができたら1勝利ポイントを失います。

**J.** 第5装甲軍のOOB制限 (41.6) 内に詳述されたごとく、ドイツ軍プレイヤーは一定の条件下で、バスターニュの孤立又は占領について得点された2又は3勝利ポイントを放棄する可能性があります。

もしも禁じられた第5装甲軍機械化ユニットが、第5装甲軍の制限が解除される前に攻撃又は攻撃されたら、ポイントは放棄されます。

#### 41.11 パットンのバスターニュ救援ランダム・イヴェント [PATTON'S RELIEF OF BASTOGNE RANDOM EVENTS]

ドイツ軍22日AMターンの前に、ドイツ軍プレイヤーは2つのサイコロを振り、適切なパットンのバスターニュ救援ランダム・イヴェントを履行します。

#### 19日AM

##### サイの目 ランダム・イヴェント

- |     |  |
|-----|--|
| 2〜3 | 米軍5CCRがMarcheで開始する。5CCAや5CCBと異なり、モンティによって召還されず予備に置かれます。  |
| 4   | 米軍第7機甲R&R。休息と再装備のため、モンティによって12月22日まで前線に出ないよう命令された第7機甲師団の3個連隊は、ゲーム全体について損耗を被りません。   |
| 5   | バスターニュの航空補給。第101空挺師団は、23日AMから26日PMターンまで航空機によって補給されます。バスターニュ内又はそこに隣接する全連合軍ユニットは、第101空挺師団の1個連隊がバスターニュを占めるか又は隣接する限り、これらの各ターンに補給下にあります。連合軍プレイヤーは、第101空挺師団の1個連隊以上がバスターニュを占めるか又は隣接する限り、23日AMから26PMの各ターンに1航空ユニットの使用を失います。   |
| 6   | アルデンヌのヤークトティーガー。第653ヤークトティーガー大隊は、ウッフアリーズ [Houffalize] でゲームを開始します。装甲教導師団と同様、これはバスターニュ・ウィルツ地域内で自由に作戦するか又は西方へ移動できます。このユニットは、スタッキング限度に対してカウントしません。   |
| 7   | ボーデンプラッテ作戦。24日AMターンに、ドイツ軍プレイヤーは連合軍妨害フェイズの後にサイを1つ振ります。もしも6が振られたら、そのターンにボーデンプラッテ作戦が発動されます。もしも6が振られなければ、6が振られるまで、続く各ゲーム・ターンの連合軍妨害フェイズの後にこの手順を繰り返します。→24日AMの後の各ターンにサイの目を1ずつ加えます（例えば、26日PMターンに自動的に6のサイの目になります）。適用については、DEBWルール29、ランダム・イヴェント#5を参照してください。                                     |
| 8   | ドイツ軍砲兵の砲撃頻度。B軍集団は、ヒトラーによるシュペトレーゼ作戦の中止を予想しました。結果として、27日AMにアルデンヌに到着した弾薬段列は、いまや早期に到着します。23日AMターンに開始して、ドイツ軍の軍団砲兵ユニットは、ゲームの残りのターンについて、各ゲーム・ターン中にその2倍の戦闘戦力を使用できます（すなわち、各プレイヤー・ターン中に一度です。DEBWルール10.1を参照）。それでも移動したドイツ軍軍団砲兵ユニットは、ゲーム・ターンのドイツ軍戦闘フェイズに攻勢射撃を行えませんが、同じゲーム・ターンの連合軍戦闘フェイズ中に防御射撃を行えます。 |
| 9   | 12月下旬にバスターニュ近郊で闘った第501ティーガー大隊が早期に南へ送られる。このイヴェントについては、ユニットがやはりバスターニュで闘った第506SSティーガー大隊の残余を吸収しているため、完全戦力です。ユニットは、ウッフアリーズ [Houffalize] でゲームを開始します。装甲教導師団と同様、バスターニュ・ウィルツ地域内で自由に作戦でき、又は西へ移   |



動できます。ユニットは3つのカンブフグループ・パイパー分割ユニットの1つで、スタッキング限度に対してカウントしません。

- 10 **第2装甲師団第3装甲連隊の夜間暗視装置。**ゲーム全体について、装甲連隊の ER を6に増加させます。第3装甲連隊のパンターは、新型夜間暗視装置を装備し、AM と PM の十分な暗闇の中で威力を発揮しました。
- 11 **スコルツェニーの復帰。**第150 装甲擲弾兵連隊は、12月18日の攻撃失敗の後に撤退しましたが、オットーは更なる剛勇を嘆願しました。—このイベントは、ヒトラーが彼にもう一度チャンスを与えたと仮定します。第150 装甲擲弾兵連隊は、装甲教導師団と同様にウッファリーズ [Houffalize] でゲームを開始し、バスターニューウィルツ地域内で自由に作戦でき、又は西へ移動できます。
- 12 **第11 装甲師団がドイツ第7軍を増強する。**ヒトラーは、第7軍を機械化で増強するマントイフェルの要請を受諾します。この師団は、23日 AM ターンに Z へ登場します。他の第7軍機械化ユニットと同様、バスターニューウィルツ地域内で自由に作戦でき、又は西へ移動できます。

#### 41.12 歴史的経過 [THE COURSE OF HISTORY]

**12月22日：**ドイツ軍は、再補給と再編を行います。サムレーで捕獲した補給品は、大いに助けとなりました。パットン第3軍の部隊は、ドイツ軍の防衛と橋梁爆破によってマルトランジュで停止しています。

**12月23日：**天候が晴れます。装甲教導師団の一部はロシュフォールに向けて移動し、師団の大部分はバスターニュー近郊で闘います。第2装甲師団は、マルシェに向けて移動します。第116 装甲師団は、ラロッシュを通過し、ウルト川の両岸にあるオットンに向けて牽制します。第2SS 装甲師団は、フレイチュアへ移動します。パットン第3軍は急進撃しますが、ショーモン (2529) でドイツ第26 歩兵師団によって停止させられます。バスターニューは、航空機投下によって161 機分の補給を受け取ります。

**12月24日：**第2 装甲師団の分遣隊はマルシェを閉鎖し、師団の本隊はマルシェとロシュフォール間の無防備な二級道路を介して、セルまで大胆に突破します。第116 装甲師団はオットンへの行軍で撃退されますが、第2SS 装甲師団はクリスマス・イヴにマンヘイを占領します。米第3軍はオンブレ (2529) を占領し、ヴォー・レ・ロジェ (2829) 周辺を確保します。ドイツ第26 歩兵師団と装甲教導師団は、バスターニュー救援を妨害するため奮戦します。包囲された米軍部隊は、ドイツ軍の歩兵、砲兵、航空機の攻撃に対して保持し続けます。

**12月25日：**セルとロシュフォール近郊のドイツ軍先鋒は、米第2 機甲師団、第4機甲騎兵、イギリス第29 旅団の反撃を受けます。ドイツ第2 装甲師団は、燃料の欠乏と途絶によって妨害されます。装甲教導師団は、ロシュフォールの南を脅かします。第9 装甲師団が、マルシェの南に到着します。総統警護旅団がオットンを猛襲する第116 装甲師団を増強しますが、再び撃退されます。第2SS 装甲師団は、マンヘイ周辺を確保します。第15 装甲擲弾兵師団は、バスターニューに対する二度の大規模な強襲に投入されています。第3軍は、マルトランジュからバスターニューへの道路に沿って停滞しますが、4CCB がルミシャンパニュ (2729) の重要な交差点を占領します。

**12月26日：**マルシェとロシュフォール地域の装甲部隊先鋒は、防衛に移行します。第2 装甲師団は、セル近郊で全滅します。総統警護旅団はオットン地域の戦いから解放され、バスターニューへ送られます。第2SS 装甲師団は、12月26日を通してマンヘイを確保するために闘いますが、米軍は大規模な砲兵に支援されて攻撃し、12月27日0400時に町を奪回します。米第3軍はバスターニューへ突破し、12月26日の夕方中に40両の補給トラックと70台の救急車が町へ入ります。パットン将軍は、バスターニューを救出しました。

## 42. フォン・ルントシュテットのマルティン計画 シナリオ—44年12月16日

[VON RUNDSTEDT'S PLAN MARTIN SCENARIO-16DEC 44]

以下のシナリオは、フォン・ルントシュテット元帥の「小さな解決」を考察する「What-if」です。もしもヒトラーがドイツに進撃する連合軍を鈍らせるため、より控えめな試みを承認していたら？おそらく、ドイツ軍はより成功していたでしょう。マップとカウンター他に、3枚のプレイヤー補助カードが必要です。チャートと表カード、裏面にマルティン計画マップ・カードを持つマルティン計画シナリオ・セットアップ・カード。

### 42.1 歴史的背景 [Historical Background]

このシナリオは、アメリカ軍にバルジの戦いとして知られる、実際のラインの守り作戦の変更計画を基本とします。多くのドイツ軍の将軍は、ヒトラーがラインの守りを明らかにしたときにショックを受けました。彼らは、1944年のドイツ軍がアントワープへ到達できるのは夢だという意見でした。特に懐疑的だったのがゲルト・フォン・ルントシュテット元帥（西方総軍司令官）とヴァルター・モデル元帥（B 軍集団司令官）です。彼らは独自に攻勢計画を練っていました。どちらの変更計画も、ヴェルヴィエからアリオンまで伸びた米第1軍の撃滅を目標としました。ドイツ軍は、これらの計画を「小さな解決」と呼びました。

モデルの計画はヘルプシュトネーベル（秋の霧）と名づけられ、第5と第6 装甲軍によるアーヒェン南部の単一突破が要求されました。この計画は、強力な重心を形成して連合軍の戦線へ楔を打ち、米第1軍を噛み砕くものでした。

フォン・ルントシュテットの計画は、マルティン計画と名づけられました。これは二重包囲攻撃になるはずでした。北方のやっとはアルデンヌ北の第15 軍による二次攻撃となり、第5と第6 装甲軍が強力な南部突破を実行します。やっこの牙はリエージュで噛み合うように計画され、米第1軍の大部分を効果的に包囲します。このシナリオは、マルティン計画の南方のやっここをあらわします。

### 42.2 仮定 [Assumptions]

- ドイツ第15 軍による攻勢のため、燃料欠乏のサイ振りを19日 AM ターンに開始します。
- ドイツ軍陣営に行き渡った秘匿は、史実どおりに発生します（連合軍は奇襲を受けます）。
- 航空支援（両陣営についての）の一部は、ドイツ第15 軍地域へ転用されることになります。
- 米1/16 連隊は、エルベで予備に拘置されず、16PM に全体として投入されます。
- ドイツ第15 軍は、史実で第6 装甲軍に配備された1 個師団を受け取ります。
- 1944年にアルデンヌの南へ移動したドイツ軍1 個師団は、ドイツ第15 軍の攻撃のため北に留まります。
- 1944年にアルデンヌの南へ移動した米軍1 個師団は、ドイツ第15 軍の攻撃のため北に留まります。
- ラインの守り前のドイツ軍装甲と歩兵師団の再建は、史実で行われたとおり発生します。
- 連合軍部隊の配置は、史実と同じです（これは、いまだに幽霊戦線です）。
- パイパーの突破とパイパーの変更ルールは、変更なしで有効です。
- ドイツ第7 軍への第79 及び第167 国民擲弾兵師団の移管は、その軍に割当てられた戦線の長さ延長のため停止されます。

### 42.3 ゲームの長さ [Game Length]

シナリオは、ドイツ軍の16日 AM ターンに開始して、連合軍の19日 PM ターンの完了時に終了します。

### 42.4 セットアップと増援 [Set-Up and Reinforcements]

連合軍ユニットは、連合軍登場序列カードに従ってセットアップされます。増援は、連合軍登場序列に従って登場します。一例外：1/16 歩兵は、16日 PM ターンに2の許容移動力を持ってエルベ [Herve] に到着します。

ドイツ軍ユニットは、マルティン計画セットアップ・カードを使用してセットアップされます。増援は、マルティン計画セットアップ・カードに従って登場します。

ドイツ第 15 軍に割当てられたドイツ軍師団：第 3 装甲擲弾兵師団、第 3 降下猟兵師団。これらは、ゲームに登場しません。

ドイツ第 15 軍に対して投入された連合軍師団：第 9 歩兵師団。これは、ゲームに登場しません。

## 42.5 ルールの変更 [Rule Changes]

全てのルール変更は、マルティン計画セットアップ・カードとマルティン計画マップ・カード上に列記されます。全ての選択ルールとパイパー変更ヴァリエントは、前述のプレイヤー補助カード上に列記されたシナリオ専用ルールによって代替又は修正されない限り有効です。

## 43. 南肩部シナリオ—44 年 12 月 16 日

[SOUTHERN SHOULDER SCENARIO-16 DEC 44]

このシナリオは、キャンペーン・ゲームに多数の歴史的要件と状況を導入し、パットンのバスターニュ救援のための攻勢に加えて、ドイツ軍のムーズ川への突破を同時に創出することを意図します。プレイは、ドイツ軍の 16 日 AM ゲーム・ターンから開始し、連合軍の 26 日 PM ゲーム・ターンに終了します。マップとカウンターの上に、4 枚のプレイヤー補助カードが要求されます：チャートと表カード、ドイツ軍登場序列カード、連合軍登場序列カード、パットンのバスターニュ救援シナリオ・プレイヤー補助カード。

### 43.1 選択ルールとヴァリエント [Optional Rules and Variants]

全ての選択ルールとパイパーの変更ヴァリエント (36) が使用されます。ドイツ軍の軍砲兵ヴァリエント (37) と追加ランダム・イベント・ヴァリエント (38) の使用が推奨されます。

### 43.2 ドイツ軍の機械化増援 [German Mechanized Reinforcement]

以下のドイツ軍機械化増援は、第 6 装甲軍へ割当てなければなりません：第 3 装甲擲弾兵師団、第 9 SS 装甲師団、第 10 SS 装甲師団。第 10 SS 装甲師団と第 11 装甲師団の登場口は、ドイツ軍登場序列カード上に仮に示されます。

以下のドイツ軍機械化増援は、第 5 装甲軍へ割当てなければなりません：総統警護旅団、第 2 SS 装甲師団、第 11 装甲師団、第 9 装甲師団。注釈：ヴァリエント・ルール 38、追加ランダム・イベント 19 日 AM-#4 (シュペートレーゼ作戦) は、第 9 装甲師団の到着が取り消されます。やはり、ヴァリエント・ルール 38、追加ランダム・イベント 19 日 AM-#5 (ヒトラーがマントイフェルに同意する) は、第 9 装甲師団を第 7 軍へ移管させます。

以下のドイツ軍機械化増援は、第 7 軍へ割当てなければなりません：総統擲弾兵旅団と第 15 装甲擲弾兵師団。注釈：ヴァリエント・ルール 38、追加ランダム・イベント 19 日 AM-#4 (シュペートレーゼ作戦) は、第 15 装甲擲弾兵師団の到着が取り消されます。

第 653 駆逐戦車大隊 (ルール 29、ランダム・イベント 18 日 AM-#6) は、どの軍へ割当てることもできます。

### 43.3 バスターニュの要素 [The Bastogne Factor]

第 5 装甲軍の大部分のドイツ軍装甲師団は、バスターニュの要塞化された町を迂回するよう命じられ、先鋒に続くユニットによって奪取されるはずでした。南肩部シナリオをプレイしているとき、ドイツ軍プレイヤーにとって最も効果的な成果は、一定の制限が適用可能になる前にバスターニュを占領することです。

連合軍については、可及的速やかにバスターニュに要塞を築き、下記で説明するその他の一定条件を満たすことが推奨されます。—それを行うことで、連合軍プレイヤーは 1944 年にヒトラーによって命じられた制限をドイツ軍装甲師団に負わせることになります。

このシナリオでは、バスターニュの重要性がより強調されます。第 101 空挺師団の全 4 個連隊は、バスターニュの町にスタックでき、補給状態にかかわらず、第 101 空挺はもしもバスターニュの町内にあるか又は隣接すると、同一師団効果 (選択ルール 18) の特典を認識できます。

### 43.4 ドイツ軍 OOB 制限の誘発 [Triggering German OOB Restrictions]

南肩部シナリオについてのドイツ軍戦闘序列 (OOB) 制限は、以下の条件が有効である、いずれかのドイツ軍ターンの開始時に誘発されます：

- ・アメリカ軍指揮官と少なくともユニットの 5 ステップによって占められたバスターニュ [Bastogne] 内に要塞がある。
- ・ヘクス列 26 の東のバスターニュ/ウィルツ地域内のいかなるヘクス内にも、連合軍地上戦闘ユニットが存在しない。

バスターニュ/ウィルツ地域とは、以下のごとく定義されます：ヘクス列 31 の東で、ウルト川の南支流の南にある全ヘクスと、2021 から 0131 へ走る対角線列以南のヘクス。例えば、クレルヴォー [Clervaux] は、バスターニュ/ウィルツ地域から外れます。バスターニュ/ウィルツ地域は、パットンのバスターニュ救援シナリオ・プレイヤー補助カード上に図で示されます。

### 43.5 ドイツ軍 OOB 制限 [German OOB Restrictions]

A. ドイツ軍 OOB 制限が有効な全てのターン：装甲教導師団と第 7 軍の機械化ユニットは、バスターニュ/ウィルツ地域 (パットンのバスターニュ救援プレイヤー補助カード上の点線を参照してください) 内のヘクス列 26 の東にある連合軍ユニットを攻撃できる唯一の機械化ユニットです。もしも連合軍ユニットがこれらのヘクス内にあると、ドイツ軍 OOB 制限が誘発され得ないので、前のセンテンスは逆説的に見えます。ただし、誘発が発生した後に連合軍ユニットがこの地域に再進入する可能性があります。

B. 以下は、ドイツ軍 OOB 制限が有効な 22 日 AM 前の全てのターンに適用します。第 5 装甲及び第 7 軍の機械化ユニットのみが、バスターニュ/ウィルツ地域 (パットンのバスターニュ救援プレイヤー補助カード上の点線を参照してください) 内のヘクス列 25 の西にある連合軍ユニットを攻撃できます。第 6 装甲軍の全機械化ユニット (開始時又は増援) は、ドイツ軍の北又は西への更なる前進に制限されます。

C. 以下は、ドイツ軍 OOB 制限が有効な 22 日 AM 以降に適用します。装甲教導と第 7 軍の機械化ユニットは、バスターニュ/ウィルツ地域内のどこかにいる連合軍ユニットを攻撃できる唯一の機械化ユニットです。その他全ての第 5 装甲軍と第 6 装甲軍の機械化ユニットは、(パットンのバスターニュ救援プレイヤー補助カード上の点線を参照してください) バスターニュ/ウィルツ地域内のヘクス列 25 の西にある連合軍ユニットを攻撃できます。第 6 装甲軍の全機械化ユニット (開始時又は増援) は、ドイツ軍の北又は西への更なる前進に制限されます。

D. もしも連合軍が 22 日 AM ターンに開始するいずれかのターンの補給フェイズ中に、バスターニュ内の連合軍戦闘ユニットへ補給道路をたどれたら、ドイツ軍 OOB 制限は解除されます。ただし、もしも連合軍が、22 日 AM から 24 日 AM ターンのいずれかの補給フェイズに上記の条件を満たすことができたなら、キャンペーン・ゲームの勝利段階は連合軍プレイヤー有利に 1 段階シフトします。

E. もしもドイツ軍 OOB 制限が有効で、禁じられた第 5 装甲と第 6 装甲軍機械化ユニットのいずれかが、バスターニュ/ウィルツ地域内の連合軍ユニットを攻撃したら、キャンペーン・ゲームの勝利段階は連合軍プレイヤー有利に 1 段階シフトします。

F. もしもドイツ軍 OOB 制限が有効で、1 つ以上の補給下連合軍地上ユニットが、22 日 AM ターン以降にバスターニュ/ウィルツ地域内で禁じられた第 5 装甲又は第 6 装甲軍機械化ユニットのいずれかを攻撃できると、キャンペーン・ゲームの勝利段階は連合軍プレイヤー有利に 1 段階シフトします。

G. キャンペーン・ゲームの勝利条件は、2 シフトする可能性があります。1 シフトは D で、1 シフトは E 又は F です。

H. 繰り返しますが、バスターニュ/ウィルツ地域内で戦闘任務が禁じられていないドイツ軍機械化ユニットは、装甲教導師団と第 7 軍のそれのみです。



### 43.6 連合軍 OOB 制限 [Allied OOB Restrictions]

南肩部シナリオについての連合軍戦闘序列 (OOB) 制限は、以下のとおりです。:

- A. アメリカ軍の 22 日 AM 増援として、C 又は D からの登場を指定されたユニットは、D2435 又は D2335 からのみ登場できます。4 CCA、4 CCB、4 CCR、26/101、26/104、26/328、193 砲兵、203 砲兵から構成される攻撃部隊は、パットン将軍からバストーニュの北に直接送られました。
- B. 南端の道路 B、C、D から登場するよう指定されたその他全てのアメリカ軍増援は、ヘクス 2435 の西の道路から登場することが禁じられます。
- C. 11/29 とモンティ指揮官ユニット以外、イギリス軍ユニットはムーズ川を渡ることができません。
- D. もしも米第 11 機甲師団が 25 日 PM の後に登場するよう拘置されたら、ヘクス 2035 の道路 D の東に登場できません。

### 43.7 シナリオ勝利条件 [Scenario Victory Conditions]

A. 勝利条件については、ルール項目 17 を参照してください。条件 17.1、17.2、17.4、17.6 は、変更なしです。

B. 勝利条件 17.3、引分けは適用しません。南肩部シナリオについての引分け条件は、以下のとおりです。:

1) ゲームは、もしもゲームの終了時に、ドイツ軍プレイヤーが少なくとも 3 つの町 (バストーニュ、サン・ヴィット、マルシェ) の少なくとも 2 つに、少なくとも 1 つの補給下のユニットを持ち、しかも少なくとも 1 つの補給下の機械化ユニットが (1) ビュル (Vireux) (ヘクス 5223) 町のムーズ川北岸へ渡るか、又は (2) ビュル (ヘクス 5223) 町のムーズ川北岸ヘクスの 1 ヘクス以内で、ラミート [Rameit] 村 (ヘクス 3204) の南にあると、引分け (どちらのプレイヤーも勝利しません) です。

2) ゲームは、もしもゲームの終了時に、連合軍がバストーニュ内の連合軍戦闘ユニットへ補給道路をたどることができず、サン・ヴィットあるいはマルシェ内に補給下のドイツ軍地上戦闘ユニットを持ち、少なくとも 1 つの補給下の機械化ユニットが (1) ビュル (Vireux) (ヘクス 5223) 町のムーズ川北岸へ渡るか、又は (2) ビュル (ヘクス 5223) 町のムーズ川北岸ヘクスの 1 ヘクス以内で、ラミート [Rameit] 村 (ヘクス 3204) の南にあると、引分けです。

C. 勝利段階のシフトは、ルール 43.5G で述べたそれ、ルール項目 17.6 で列記したそれ、下記のそれを含み蓄積します。:

- 1) もしもマルトランジュ [Martange], メルシュ [Mersch], コンズドルフ [Consdorf] が、ゲームの終了時に補給下のドイツ軍ユニットによって占められると、1 段階ドイツ軍へ向かいます。
- 2) もしもエテルブリュック [Eitelbruck], ビューフォート [Beaufort], エヒタナハ [Ehtemach] がゲームの終了時に補給下のドイツ軍ユニットによって占められると、1 段階ドイツ軍へ向かいます。
- 3) もしも補給下の連合軍ユニットがゲームの終了時にウィルツを占めると、1 段階連合軍へ向かいます。
- 4) もしも補給下の連合軍ユニットがゲームの終了時にクレルヴォーを占めると、1 段階連合軍へ向かいます。
- 5) もしもゲームの終了時に、補給下の連合軍地上ユニットが、ゲームの開始時にドイツ軍によって支配された 10 町のいずれか 1 つを占めると、1 段階連合軍へ向かいます。
- 6) 勝利段階のシフトは、どちらのプレイヤーについても、戦術レベルを超えて勝利の段階を増加させることができません。

## 44. 突出部の掃討シナリオ—44 年 12 月 30 日

[ERASING THE BULGE SCENARIO—30 DEC 44]

以下のシナリオは、後にヒトラーによってアルデンヌ攻勢の最重要奪取目標と認識されて達成されなかった、バストーニュで展開された乱打戦を創出します。Hugh Cole は、バルジの戦いのこの段階について、「バストーニュ回廊を広げることは、突出部の掃討を意味

した。」と述べ、後に「突出部の掃討」と言われました。マップとカウンターの他に、6 枚のプレイヤー補助カードが必要です。: チャートと表カード、ターン記録欄の拡張カード、突出部の掃討ドイツ軍セトアップ・カード、突出部掃討連合軍セトアップ・カード、裏面に戦闘序列制限を持つ突出部シナリオ解説カード。

### 44.1 プレイのためのルール [RULES FOR PLAY]

このシナリオのプレイに必要な全てのルールと情報は、上記で述べたプレイヤー補助カード上に記されています。

A. 拡張カード上のターン記録欄と拡張カード上の情報は、以下のごとく限定された方法で使用されます。:

- ゲーム・ターンの表示。このシナリオは、ドイツ軍の 12 月 30 日 AM ターンに開始して、連合軍の 1 月 4 日 PM ターンの後に終了します。
- 地表状況の確認。地表凍結は、全ターンについて有効です。吹き溜まり [Snow Drifts] は、最後の 4 ターンについて有効です。
- 各ターンについて、ドイツ軍と連合軍の航空機割り当てを確認します。
- 連合軍増援のみを確認します。—31 日 AM ターンに第 401 砲兵グループ。

B. 突出部の掃討シナリオ解説カードを見て、モンティ、パットン、リッジウェイが連合軍戦略決定表上で行うためにサイを振ります。サイが振られた計画は、突出部を掃討するための連合軍の残忍性を判定します。

C. 突出部の掃討シナリオの戦闘序列制限は、突出部の掃討シナリオ解説カードの裏面です。この情報は、公式や非公式の資料を使用してリサーチした後でディヴェロップされました。このカードのリサーチと準備には、数ヶ月を要しました。カードは、プレイヤー諸氏にユニットを一定の地域にセトアップしなければならない時と場所を示唆します。

### 44.2 状況報告: 44 年 12 月 27~29 日

[SITUATION REPORT: 27-29 DEC 44]

**エルゼンボルン尾根 [Eisenborn Ridge]** 4 個の米軍歩兵師団が、モンシャウからウェームまでエルゼンボルン尾根に沿って布陣しており、尾根を奪取しようとするドイツ軍の全試みを撃退していました。12 月 24 日から 27 日までほとんど動きがなく、ドイツ第 15 軍による支援的攻勢 (シュペートレーゼ作戦) は、ヒトラーによって中止されていました。この管内の 5 個ドイツ国民擲弾兵 (VG) 師団は数日間休息しましたが、司令部は米軍歩兵の突き出した楔を押し返し、その背後にいる米軍砲兵部隊を除去するため、エルゼンボルン近郊のアメリカ軍戦線を攻撃することに決めました。12 月 28 日、第 12 及び第 246 国民擲弾兵師団は、エルゼンボルン近郊の 3 個米軍師団の部隊を攻撃して易々と敗北しました。この時点で、ドイツ軍は北部において完全に防御に移行し、弱体な北肩部に対するアメリカ軍の反撃を不安な面持ちで待ちました。

**マルメディ [Malmedy]** この地域では、大きな動きはありませんでした。第 3 降下猟兵師団はマルメディの南と南東に位置取りしており、オットー・スコールツェニーは撤退していました。第 18 国民擲弾兵師団は、アンブレイブ川の南岸に身を潜めていました。両陣営は、ザルム川東での攻勢機動に興味を示しませんでした。米軍第 30 歩兵師団は、キャンプグルッペ・パイパーを阻止して除去した後は不活発でした。ドイツ軍は満足し、米軍は大隊レベルの偵察部隊でときどきドイツ軍の防御を探索攻撃しました。

**マンヘイ [Manhey]** この地域は、バストーニュの救援以来激しい戦闘が見られました。第 2 SS 装甲師団によって陥落していたマンヘイの町は、12 月 27 日朝の圧倒的な砲兵弾幕の後に第 517 空挺によって奪回されました。ただし、第 6 装甲軍は、この地域内での攻撃を諦めていませんでした。12 月 27 日夕刻、第 12 SS 装甲師団の兵士たちは、マンヘイの西にあるサゾーの村に浸透し、村落の支配のために二日間の混乱した戦いを引き起こしました。12 月 29 日の朝、ドイツ軍は遂にサゾーから追い出されました。東方では、第 9 SS 装甲師団と第 62 国民擲弾兵師団の一部によって、攻撃が発動されましたが途中で打ち切れ、無意味となりました。年の終わりが近

づくにつれて、ドイツ軍の将軍たちは装甲部隊を戦列から外し始めました。

**マルシュ・シャンピヨンの森 [Marche-Champion Forest]** 連合軍は、ロシュフォールの西でドイツ軍の装甲先鋒を除去し、ユマンを奪回していました。撃破された第2装甲師団の残余は、ロシュフォールの南に位置取りして活気がなく、装甲教導師団は遙か南のシャンピヨンの森で陣を張っていました。完全戦力の第9装甲師団は、ユマンの南西で防御態勢を取っており、勇猛な第116装甲師団は第XLVII装甲軍団の右側面を保持しています。総統警護旅団は、バストーニュ回廊を封鎖するため南へ送られていました。フォン・マントイフェルは、自身の4個装甲師団の不安定な布陣を心配していました。連合軍がウルト川の重要な渡河点を占領すれば、全4個師団を容易に撃破できます。12月26日の後、第XLVII装甲軍団の目的は、退却命令が出されるときに備えて脱出路を解放しておくことでした。戦線の反対側では、第2機甲師団と2個歩兵師団から構成される米第VII軍団が、イギリス第XXX軍団と交代していました。前線の再編成は、12月31日までに完了しました。まもなく、これら連合軍の両軍団は、「突出部の掃討」のため無防備なドイツ軍に襲いかかることになります。ただし、ドイツ軍にとって幸いなことに、モントゴメリーはほとんど攻撃する気がなく、防御側のドイツ軍はより不安定な状況に押し込まれませんでした。

**ルコーニュ [Recogne]** 第87歩兵師団は、米第VIII軍団に統合されるため北に移動し、サン・ユベールとウルト尾根をピロンプレで占領するよう命じられていました。西方では、最近イギリスから到着し、新米ながら勇猛な第17空挺師団がバストーニュへ向かって移動していました。

**バストーニュ [Bastogne]** バストーニュ周辺の戦闘は、止んでいませんでした。12月26日に町が救援されて以来、ドイツ軍の抵抗は強化され、両陣営はこの地域に予備を送っていました。ヒトラーは、バストーニュの封鎖と撃破を望みました。パットンは、第III軍団と第VIII軍団を強化し、東へ進撃してサン・ヴィットを奪取することを楽観的に期待しました。12月27日、米軍はバストーニュに入る有効な再補給路を未だ持たず、依然として航空補給に頼らなければなりません。不幸にも、C47補給航空機の13機中9機が町を取り巻いているドイツ軍高射砲によって撃ち落とされ、バストーニュへ安全な補給ルートを開く計画は最優先になりました。12月30日が近づくにつれて、両陣営はバストーニュ近郊で攻勢を計画していました。連合軍の「バストーニュ回廊を広げる」目標は、ドイツ軍の再包囲を確立して完全封鎖する目的とまさに対称でした。

**ウィルツ [Wiltz]** 第III軍団からの第26師団と第XII軍団に貸し出されていた第80師団は、ウィルツに進撃していました。バストーニュとウィルツ間の森林と荒地の地形は、移動と攻撃を困難にしました。ドイツ第7軍の司令部は、ウィルツに位置していました。この容易に防御できる町から防御側を追い出すことは、極端に困難となるでしょう。

**ウール川地域 [The Our River Area]** 米第5歩兵師団、第2騎兵、10CCA、軍団砲兵は、ウール川を渡った南背後の弱体な防御側のドイツ軍へ進撃していました。12月27日までに、米軍はアルゼット川東の元々のラインに復帰していましたが、ドイツ軍はウール川とクレルフ川との間の領域を保持していました。パットンは、プリュムを睨んで南肩部を保持している弱体なドイツ軍部隊に対する攻撃を提案しました。

#### 44.3 ドイツ軍の計画 [THE GERMAN PLAN]

ドイツ軍の計画は、シンプルでした。マンヘイとサン・ヴィット地域の装甲師団が南へ移動し、集中攻撃で再び孤立したバストーニュのアメリカ軍を殲滅する準備をしました。バストーニュの西では、総統警護旅団、第3装甲擲弾兵 (PG) 師団、第115PG連隊が、30日AMにヌフシャトーからバストーニュまでの道路を切断するために攻撃します。このときまでに装甲増援が北から到着し、包囲が完成することが期待されました。その他全地域のドイツ軍部隊は、防御に移行することになります。フォン・ルントシュテットとモーデル元帥は、この計画はドイツ軍に何らかの役割を与えることができ

ると考え、フォン・マントイフェル将軍はバストーニュを奪取するために追加の資源を与えられましたが、彼はウルト川の西にある4個装甲師団を引き抜くことに非常な関心を持っていました。

#### 44.4 連合軍の計画 [THE ALLIED PLANS]

12月27日、コリンズ将軍は、アルデンヌ攻勢中にドイツ軍によって失われた土地を奪回するための連合軍の攻勢について、3つの攻撃計画を携えて米第1軍司令部を訪問しました。その1つは、バストーニュで米第7軍と結合するため、イギリス第XXX軍団によるウルト川とロム川間のドイツ軍への圧力でした。もう一つは、マンヘイ地域内のドイツ軍を第VII軍団が強打し、ウッフアリーズで米第3軍と連結するものでした。最も野心的なものは、マンヘイとエルゼンボルンからサン・ヴィットへ向かってパットンの第3軍と連結し、次いで南肩部の弱体なドイツ軍に対して攻勢を発動するものでした。

12月27日、バストーニュに到達していた第3軍は、パットン将軍から攻撃方向を変えるよう命令されました。パットンは、突出部の根元にいる第XII軍団による攻勢を含め、続くサン・ヴィットへの突破と西方にあるドイツ3個軍を孤立除去するという、大きな解決策を望みました。第XII軍団による攻撃は、やはりサン・ヴィットへ進撃しようとする第V軍団の攻撃と同時でした。パットンとその他多くの高級将軍たちは、肩部に対する攻撃が西部戦線のドイツ軍装甲予備を撃破し、西方での戦争を短縮させると信じました。不幸にも、ホッジスとモントゴメリーは、大きな解決策に慎重になりました。パットンは、別の方法で解決しなければなりませんでした。

12月27日、ブラッドレイ将軍は、第3軍が採用した計画をアイクに説明しました。米第VIII軍団は、30日AMに「バストーニュ回廊を広めるために」攻撃し、次いでウッフアリーズに進出して北から攻撃している第VII及び第XVIII軍団と合流するものでした。第III軍団は、パットンの餌であるサン・ヴィットを最終目標として、バストーニュの北東を攻撃することになりました。ブラッドレイ将軍は、この計画がドイツ軍の南肩部に対する進撃というパットンのコンセプトではなかったと注意深く指摘しました。米第3軍は、12月30日にその攻勢を開始しました。

ブラッドレイは、第1軍が南を攻撃することを望みましたが、それはモントゴメリーが採用したであろう計画を想起させました。12月27日、モントゴメリー元帥は、ドイツ軍の戦線を押し戻すための攻勢を考慮し始めましたが、彼は第XXX軍団によるバストーニュへ向けた攻撃を選びました。ホッジスとコリンズ将軍は、直ちに第VII軍団による東方へのエルゼーとマンヘイを通過するウッフアリーズ攻撃について討論を開始しました。モンティは、マルメディとエルゼンボルンからサン・ヴィットに向けた攻撃での大きな解決すら関心がありませんでした。結局、ホッジスとコリンズは、その場にいるよう説得されましたが、12月31日までではありませんでした。ついに大晦日になって、モントゴメリーは第VII軍団が北からウッフアリーズを攻撃することに同意し、イギリス第XXX軍団は北西からドイツ第XLVII装甲軍団を攻撃しました。

要約すると、「突出部を掃討する」ための連合軍の攻勢は、以下の命令から構成されます。:マルメディ及びエルゼンボルン地域内では米第V軍団が不参加で、最終攻勢のためにヴェテラン師団の戦力を温存します。マンヘイ地域では、第XVIII軍団がドイツ軍を弱めるために攻撃を継続し、第VII軍団のスチームローラーが後に続きます。第VII軍団の目標は、ウッフアリーズで米第VIII軍団と連結することです。マルシュ地域では、イギリス第XXX軍団がシャンピヨンの森を抜けて攻撃し、バストーニュで米第VIII軍団と連結します。米第87師団は、サン・ユベールを占領して第VIII軍団の左側面を安定させ、バストーニュの西でウルト川を渡ります。第VIII軍団は「バストーニュ回廊を広げ」、最終的にウッフアリーズで第VII軍団と結びます。米第III軍団は、バストーニュの北東をサン・ヴィットへ進撃し、全ドイツ軍を西へ包囲することを期待します。米第35及び第26師団は東次いで北を攻撃し、ウィルツとクレルヴォーを占領します。米第XII軍団は戦線を維持しますが、もしも第III軍団の攻撃が成功したら、プリュムへ向けて攻撃するための準備をします。

かくして、軍事史からの逸脱が発生しようとしていました。「バストーニュ回廊を広げる」ための南部における連合軍の攻勢は、バス



トーニュを包囲するためのドイツ軍の攻勢と真っ向からぶつかりました。「突出部を掃討」する計画は、ドイツ軍装甲予備の大軍の中に直接行くことになりました。もしも連合軍がバストーニュで防御を演じてドイツ軍の予備を前方に誘引し、肩部を保持している弱体なドイツ軍歩兵師団に攻勢がたたき込まれていたら、何が起きていたでしょうか？

#### 44.5 歴史的経過 [THE COURSE OF HISTORY]

マルメディとエルゼンボルン尾根の近辺では、戦闘はありませんでした。米第1歩兵師団は、「前線を保持している弱体化したドイツ軍歩兵師団は容易に突破できたが第V軍団は引き留められた」と報告しました。アメリカ軍が北に行かないことがOKWに明らかになったとき、2個の第12SS装甲連隊がバストーニュとウィルツ間のドイツ軍前線を増強するために送られました。

マンヘイ地域では、12月29日にアメリカ軍がサザーを奪回した後、つかの間の休息がありました。ドイツ軍は、第9SS装甲及び第162VG師団の一部による弱体な攻撃を發動しましたが、第82空挺兵と砲兵によって容易く撃退されました。元旦には、ドイツ軍装甲部隊は前線から押し出されてバストーニュへ移動しました。第XVIII軍団は、突出部掃討のための攻勢を開始することに熱心でしたが、前線を矯正するための小規模戦闘が行われただけでした。米軍の後方では修理部隊がノンストップで働き、第3機甲師団へ46両の戦車を送りました。1月3日、第2機甲師団及び第84歩兵師団はエルゼー近郊から攻勢を發動し、第3機甲及び第83歩兵師団はマンヘイから南を攻撃しました。当初、攻撃は順調に進捗しましたが、モントゴメリーの計画は母なる自然によって阻止されました。視界を遮る雪嵐と激しい風が深い雪の吹き寄せを堆積させ、移動を大いに妨げ、有視界の砲兵支援は困難で、航空支援は不可能でした。モンティは長く待ちすぎました。ドイツ軍の防御はブリザードによって強化されました。サムナーとフレチュールの重要交差点に到達してウッフアリーズを孤立させるアメリカ軍の努力は失敗しました。

1944年の終わり、戦場のマルシェ地域では、イギリス第XXX軍団が北へ移動した第VII軍団と入れ替わりしました。12月30日から1月2日までユマンとオットンの間で戦闘はなく、ロシュフォール外部で小規模な散兵線のみがあり、両陣営は東方への移動にギアを入れました。1月3日にイギリス軍が攻撃したとき、最大の敵は天候で、ドイツ軍は慎重に東方への連携した撤退を開始したため、遅滞戦闘に甘んじていました。フォン・マンティフェルの度重なる懇願にもかかわらず、ヒトラーはこの危険な突出部分から引き上げることが禁じました。ただし、イギリス軍の攻勢はブリザードによって吹き飛ばされ、進捗はほとんどありませんでした。あまりにも移動が困難なので、防御は非常に容易でした。

シャンピヨンの森では、第87歩兵師団が12月30日に連合軍の攻勢を開始し、木々の間を浸透してサン・ユベールとウルト川へ向かいました。ただし、成功は限定的でした。1個アメリカ軍歩兵師団が、バストーニュを迂回して以来ほとんど激しい戦闘をしておらず十分に休息した装甲教導師団に対しました。12月30日から1月4日まで、これら2個師団からの戦闘員は互いに浸透し、包囲し包囲されましたが、12月30日の元々の移動からほとんど土地の得失はありませんでした。ブリザードが吹いたとき、ドイツ軍はサン・ユベールの前面で強力な陣地を占めており、ピロンプレのウルト川橋梁を確保していました。

ウル川地域内では、12月27日から1月18日まで戦闘がありませんでした。もしもパットンが第6機甲師団と第87歩兵師団を攻勢に投入していたら、この地域の弱体なドイツ軍国民擲弾兵師団は熟した果実だったでしょう。その代わりに、第6機甲師団は第XII軍団から外されてドイツ軍戦力の中心へ送られ、そこで戦争中最悪の損害を被りました。第87師団も遙か西へ送られ、シャンピヨンの森で装甲教導師団と猫と鼠の役を演じました。

ウィルツ地域内では、12月30日に連合軍の攻勢が開始される前に、第26歩兵師団がエデーシェドにジュール川を渡った橋頭堡を持っていました。支援を受けなかった第26歩兵師団は、ついにウィルツ周辺に到達しましたが、それ以上は進めませんでした。いったんジュール川を渡ると、第26は防御側のドイツ軍と同じくらい

問題となった地形に遭遇しました。攻撃での戦車の使用は、ほぼ不可能でした。ウィルツ周辺の土地は、「小スイス」として知られていました。ベルギーとルクセンブルクでは、ここよりも通過困難なのはシュネーアイフェルだけです。この地域内のアメリカ軍の攻勢は、ウィルツの外側で立ち往生しました。

バストーニュ地域で、アメリカ軍は戦争中の西部戦線で最悪の死傷者を被りました。両陣営は、何万人もの凍傷者を出しました。通常の交通手段で搬出できなかった何百もの負傷者は、南極大陸でペリー提督を支援し、最近100歳で亡くなったLTC Norman Vaughnに指揮された米救助犬チームによって死から救われました。ブリザードの条件と地表凍結は蛸壺掘りを妨げ、全部隊にとっての最優先課題になりました。両陣営は予備を戦闘に投入し、戦いは建物と村落の取り合いになりました。12月26日から1月6日まで、前線は膠着しました。バストーニュの戦いは、消耗戦になりました。バストーニュのアメリカ軍は、ルフトヴァッフェによって毎日攻撃されました。機銃掃射や爆撃に慣れていないGIは、不平不満を撒き散らしました。連合軍の情報は再び期待外れで、パットンはバストーニュの東で思いがけず第6装甲軍の部隊に遭遇しました。パットンば、第3軍が目標達成に失敗したことをアイクに謝罪しました。アメリカ軍はかろうじてバストーニュ回廊を広げ、ウッフアリーズ又はサン・ヴィットへの進撃はありませんでした。

一方のドイツ軍は、バストーニュの厄介なアメリカ軍を全滅させるための無駄な闘いに貴重な資源を費やしました。アルデンヌの闘いの前、ドイツ軍はいまだにアメリカ軍GIは無能で、優秀なドイツ軍の軍事的腕前に対して勝るのは航空優越と豊富な砲兵だけと見なしていました。ヒトラーは、最高の装甲師団がバストーニュを取れないことにうざりしていましたが、モーデル將軍はアメリカ軍が成長したので、両陣営にとって象徴的になった土地を与えないのだと彼に伝えました。ドイツ軍はバストーニュ回廊を封鎖できず、「バストーニュで煮る」こともできませんでした。ヒトラーは、意識を「ノルトヴィント」に向けました。

1月4日の終わり、ドイツ軍はいまだにウッフアリーズ、ヴィエルサルム、サン・ヴィット、クレルヴォーを占領していました。ゲーム的には、ドイツ軍は限定的勝利を達成しました。

### 45. 拡張キャンペーン・ゲーム—44年12月27日 [EXTENDED CAMPAIGN GAME-27 DEC 44]

16日AMターンから26日PMターンまでプレイするキャンペーン。ゲームは、1月4日PMターンの終了まで拡張できます。キャンペーン・ゲームと拡張キャンペーン・ゲームについての勝利条件は、大きく異なります。連合軍の26日PMターンの後に終了するキャンペーン・ゲームの勝利条件は、ルール項目17に記されます。

#### 45.1 拡張キャンペーン・ゲームの勝利条件

##### [Extended Campaign Game Victory Conditions]

キャンペーン・ゲームが26日PMターンを超えて1月4日PMターンまで拡張されるとき、ルール項目17に列記された勝利条件は使用されません。拡張キャンペーン・ゲームの勝利条件は、拡張カード上に記されています。

#### 45.2 拡張カードの情報 [Expansion Card Information]

拡張カードは、12月27日AMから1月4日PMターンについてのドイツ軍と連合軍の増援を扱う、拡張キャンペーン・ゲーム戦闘序列を含みます。拡張カードは、各ターンのドイツ軍と連合軍の航空機、各ターンの地表状況を列記する拡張キャンペーン・ゲーム・ターン記録欄も含みます。地表状況は、12月27日AMから1月4日PMターンの全ターンについて地表凍結で、1月3日AMから1月4日PMの最後の4ターンについては、積雪 [Snow Drifts] です。

#### 45.3 拡張キャンペーン・ゲーム・ランダム・イベント

##### [Extended Campaign Game Random Events]

キャンペーン・ゲームが26日PMターンを超える場合はいつでも、拡張キャンペーン・ゲーム・ランダム・イベントが発生します。ドイツ軍27日AMターンの開始時、ドイツ軍プレイヤーはサイコロを2つ振って下の表を調べます。結果は、指定されたターンに適用します。

## 27 日 AM

## サイの目 ランダム・イヴェント

- 2 ヒトラーが27 日 AM ターンに第10SS 及び第11 装甲師団を投入する。第10SS 装甲師団は、R～U に到着する。第11 装甲師団は Z へ。もしも19 日 AM のランダム・イヴェント#4 又は#8 の結果としてシュペトレーゼ作戦が発動されていたら、ドイツ軍の第10SS 及び第11 装甲師団はゲームに登場できない。代わりに、拡張キャンペーン・ゲーム・ランダム・イヴェント#6 と#7 を履行する。
- 3 ヒトラーが第10SS 装甲師団を投入する。これは、27 日 AM に R～U に到着する。もしも19 日 AM のランダム・イヴェント#4 又は#8 の結果としてシュペトレーゼ作戦が発動されていたら、ドイツ軍の第10SS 装甲師団はゲームに登場できない。代わりに、拡張キャンペーン・ゲーム・ランダム・イヴェント#6 と#7 を履行する。
- 4～5 ヒトラーが第11 装甲師団を投入する。これは、27 日 AM に Z に到着する。もしも19 日 AM のランダム・イヴェント#4 又は#8 の結果としてシュペトレーゼ作戦が発動されていたら、ドイツ軍の第11 装甲師団はゲームに登場できない。代わりに、拡張キャンペーン・ゲーム・ランダム・イヴェント#6 と#7 を履行する。
- 6 ヤークトティーガーが27 日 AM に到着する。もしもこれらがまだ存在しなければ(ルール29、#6を参照)。加えて、拡張キャンペーン・ゲーム・ランダム・イヴェント#7 を履行する。
- 7 27 日 AM ターンを含むいずれかのドイツ軍ターンの開始時に、合計2つの減少戦力機械化ユニットを完全戦力に裏返すことができる。ユニット(たち)は、補充を受け取るために補給下でなければならず、移動フェイズ中に移動できない。
- 8 アイクがモンティに圧力をかける。イギリス軍ユニットが早期に投入される。連合軍プレイヤーはサイを1つ振る。: 1～2の目で、30 日 AM ターンにムーズ川を渡るよう計画されたイギリス軍ユニットは、27 日 AM ターンに渡ることができる。3～4の目で28 日 AM ターンに渡ることができ、5～6の目で29 日 AM ターンに渡ることができる。完全な情報については、拡張カード上の拡張キャンペーン・ゲーム戦闘序列の注釈2を参照。
- 9 アイクが叫ぶ:「すべての祝福が神を賛美させたもう！」モンティがイギリス第XXX 軍団にムーズ川を渡らせて送るときの言葉。全てのイギリス軍ユニットは、30 日 AM ターンにムーズ川を渡ることができる。
- 10 アイクが面食らう。モンティは第XXX 軍団にムーズ川を渡らせることを約束したが、引き伸ばし続ける。連合軍プレイヤーは、サイを1つ振る。: 1～2の目で、30 日 AM ターンにムーズ川を渡るよう計画されたイギリス軍ユニットは、31 日 AM ターンになるまで渡らず、3～4の目で1 日 AM ターンになるまで渡らず、5～6の目で2 日 AM ターンになるまで渡らない。完全な情報については、拡張カード上の拡張キャンペーン・ゲーム戦闘序列の注釈2を参照。
- 11 アイクが爆発する。モンティは引き伸ばしのため罷免された。モンティ指揮官ユニットが取り去られる。オマール・ブラッドレイが全連合軍部隊司令官に任命され、27 日 AM ターンに G/H に登場する。第29 機甲旅団を除き、ゲームの残りについてムーズ川を渡るイギリス軍ユニットはない。

## 12

**痛癢持ち!** [Tappichfresser] ヒトラーが総統に就任して以来、ドイツ幕僚団が影で囁いていたあだ名。ヒトラーは、ノルトヴィントのために第II SS 装甲軍団を不意に撤退させた。第2SS 及び第9SS 装甲師団の全ての連隊は、直ちに取り去られる。もしもこの部隊のいずれかのユニットが交戦状態、孤立状態又は何らかの理由で移動できなければ、これら特定連隊は撤退しない。

## 46. 早期アルデンヌ攻勢シナリオー44年12月10

## 日 [EARLY ARDENNES OFFENSIVE SCENARIO—10 DEC 44]

以下のシナリオは、アルデンヌ攻勢が元々予定された12月10日の発動を扱います。プレイのため、マップとカウンターの他に3枚のプレイヤー補助カード: チャート表カード、ドイツ軍登場序列カード、連合軍登場序列カードが必要です。

## 46.1 展望と仮定 [Perspective and Assumptions]

アルデンヌ攻勢の開始時期は、いくつかの理由により44年12月16日に延期されましたが、最も重大だったのは、作戦に参加する部隊の全てが44年12月10日までに割当てられた位置につけなかったことです。44年12月10日の早期開始は、追加12ターンの飛行に適さない天候をドイツ軍に与えます。不幸にも、このシナリオの時間枠では地表凍結がありません。このシナリオは、ドイツ軍の10日AM ターンから連合軍の20日PM ターンまでのキャンペーン・ゲームとしてプレイするよう指定されます。全ての選択ルールとパイパー変更ヴァリエント(36)が使用されます。ドイツ軍の軍砲兵ヴァリエント(37)も使用できますが、追加ランダム・イヴェント・ヴァリエント(38)はこのシナリオについては推奨しません。

- ・ドイツ軍陣営に行き渡った秘匿は、史実どおりに発生します(連合軍は奇襲を受けます)。
- ・ラインの守り前のドイツ軍装甲と歩兵師団の再建は、史実で行われたとおりに発生します。
- ・パイパーの突破とパーパーの変更ルールは、変更なしで有効です。
- ・ドイツ軍の増援計画は、6日又は12ターン繰り上げられます。
- ・連合軍の増援計画は、第11機甲師団を除き、ドイツ軍の計画と同様に繰り上げられます。

## 46.2 ドイツ軍の開始位置 [German At Start Dispositions]

開始時—10日AM ターン: 44年12月10日のドイツ軍ユニットの開始位置は、44年12月16日のそれと同じですが、以下の例外があります。:ヘクス0818内で開始する第62国民擲弾兵師団の第190連隊は、代わりに0919です。

## 46.3 連合軍の開始位置 [Allied At Start Dispositions]

開始時—10日AM ターン: 44年12月10日にゲームを開始する米軍ユニットの数、構成、位置は、連合軍OOAカード上の44年12月16日開始の米軍ユニットの表示と大きく異なります。2個の連隊規模ユニット、第14騎兵グループと第109歩兵連隊は、小規模な編成に分割されます。44年12月10日に開始する全ての米軍ユニットは、10日AM ターンに使用可能な移動ポイントと共に以下に列記されます。:

- ヘクス1106: 第406砲兵—10日AM ターンに1MP。
- モンシャウ [Monschau]: 第102騎兵—10日AM ターンに2MP。
- スパ [Spa]: ホッジス将軍—10日AM ターンに4MP。
- ヘクス0806陣地内: 99/395歩兵—10日AM ターンに2MP。
- ロッヘラートークリンケルト [Rocherath-Krinkelt]: 99/393歩兵—10AM ターンに2MP。
- ヘクス0712陣地内: 99/394歩兵—10日AM ターンに4MP。
- ヘクス0714陣地内: 第14騎兵第18大隊—10日AM ターンに5MP。
- ヘクス0716陣地内: 2/9歩兵—10日AM ターンに3MP。
- ヘクス0817陣地内: 2/38歩兵—10日AM ターンに3MP。
- ヘクス1019陣地内: 2/23歩兵—10日AM ターンに3MP。
- ヘクス1215: 第402砲兵—10日AM ターンに1MP。



ヘクス 1216 : 第 174 砲兵—10 日 AM ターンに 1MP。  
 ヘクス 1319 : 第 333 砲兵—10 日 AM ターンに 1MP。  
 ヘクス 1520 : 9CCB 機甲—10 日 AM ターンに 2MP。  
 バストーニュ [Bastogne] : ミドルトン将軍—10 日 AM ターンに 4MP。  
 ヘクス 1220 陣地内 : 28/112 歩兵—10 日 AM ターンに 4MP。  
 ヘクス 1424 陣地内 : 28/110 歩兵—10 日 AM ターンに 4MP。  
 ヴィアンデン [Vianden] : 28/109 歩兵の (2-1) 分遣隊—10AM ターンに 4MP。  
 ボーフォール [Beaufort] : 28/109 歩兵の (3+1) 分遣隊—10AM ターンに 4MP。  
 エヒタナハ [Echternach] : 4/12 歩兵—10 日 AM ターンに 4MP。

#### 46.4 ドイツ軍の増援—修正計画

[German Reinforcements—Modified Schedule]

ドイツ軍登場序列 (OOA) カードを参照し、以下のように増援計画を修正します。:

10 日 PM の登場は、ドイツ軍 OOA カード上に表示された 16 日 PM 増援。  
 12 日 PM の登場は、ドイツ軍 OOA カード上に表示された 18 日 AM 増援。  
 13 日 AM の登場は、ドイツ軍 OOA カード上に表示された 19 日 AM 増援。  
 14 日 AM の登場は、ドイツ軍 OOA カード上に表示された 20 日 AM 増援 (総統警護)。  
 14 日 PM の登場は、ドイツ軍 OOA カード上に表示された 20 日 PM 増援。  
 15 日 AM の登場は、ドイツ軍 OOA カード上に表示された 21 日 AM 増援。  
 15 日 PM の登場は、ドイツ軍 OOA カード上に表示された 21 日 PM 増援。  
 17 日 AM の登場は、ドイツ軍 OOA カード上に表示された 23 日 AM 増援。  
 19 日 AM の登場は、ドイツ軍 OOA カード上に表示された 25 日 AM 増援。  
 19 日 PM の登場は、ドイツ軍 OOA カード上に表示された 25 日 PM 増援。

#### 46.5 新たな連合軍の増援 [New Allied Reinforcements]

以下の増援は、10 日 AM に登場します。これらは、連合軍 OOA カード上に増援として表示されません。

10 日 AM に G へ登場 : 106/422 と 424 歩兵を完全移動で。  
 10 日 AM に C へ登場 : 9CCR を完全移動で。  
 10 日 AM に C へ登場 : 第 14 騎兵第 32 大隊を完全移動で。  
 10 日 AM に B へ登場 : 9CCA 機甲を完全移動で。

#### 46.6 連合軍の増援—修正計画

[Allied Reinforcements—Modified Schedule]

連合軍 OOA カードを参照し、以下のように増援計画を修正します。:

11 日 AM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 8 つの 17 日 AM 増援。  
 11 日 PM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 4 つの 17 日 PM 増援。  
 12 日 AM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 13 の 18 日 AM 増援。  
 12 日 PM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 18 日 PM 増援。  
 14 日 AM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 4 つの 20 日 AM 増援。  
 14 日 PM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 20 日 PM 増援。  
 15 日 AM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 4 つの 21 日 AM 増援。  
 15 日 PM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 2 つの 21 日 PM 増援。  
 16 日 AM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 24 の 22

日 AM 増援。

16 日 PM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 4 つの 22 日 PM 増援。

17 日 AM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 6 つの 23 日 AM 増援。

18 日 AM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 10 の 24 日 AM 増援。

19 日 AM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 4 つのイギリス軍 25 日 AM 増援。

20 日 AM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 3 つの 26 日 AM 増援。

20 日 PM の登場は、連合軍 OOA カード上に表示された 7 つの 26 日 PM 増援。

注釈 : 米第 11 機甲師団は、計画繰上げに使用不能です。

#### 46.7 米第 14 騎兵グループと 28/109 歩兵連隊

[The US 14<sup>th</sup> Cavalry Group and the 28/109 Infantry Regiment]

米第 14 騎兵グループと 28/109 歩兵連隊からの 4 つの分割ユニットは、スタッキング目的において完全規模ユニットとしてカウントします。第 14 騎兵と 28/109 歩兵は、構成ユニットがいずれかのフェイズを一緒にスタックして終了したら、完全戦力に再統合できます。いったん再統合したら、完全規模ユニットは再び分割できません。

#### 46.8 地表状況 [Ground Conditions]

10 日 AM から 17 日 PM ターンについての地表状況は通常です。

18 日 AM から 19 日 PM ターンについての地表状況は泥濘です。

20 日 AM から 20 日 PM ターンについての地表状況は通常です。

#### 46.9 航空機 [Aircraft]

ドイツ軍は、12 日 AM、12 日 PM、17 日 AM、17 日 PM、18 日 AM、18 日 PM に、2 つの航空機を受け取ります。

連合軍は、12 日 AM、12 日 PM、17 日 AM、17 日 PM、18 日 AM、18 日 PM に、2 つの航空機を受け取ります。

#### 46.10 ルールとイベントの促進 [Rule and Event Acceleration]

ルール 5.4 : ドイツ軍の軍境界線は、10 日 AM から 12 日 PM ターンまで有効です。

ルール 12.6 : ドイツ軍の補給欠乏ルールは、14 日 AM ターンに有効となります。

ルール 13.1 : 橋梁爆破は、10 日 AM 又は 10 日 PM ターンに試みることができません。

ルール 15 : 初期奇襲—15.1 から 15.7 の全ての定義が 10 日 AM ターンに適用されます。

ルール 19 : SS 装甲恐慌は、10 日 PM と 11 日 PM ターンに可能です。

ルール 20 : 損耗は、15 日 AM ターンに開始します。

ルール 26 : 降伏のサイ振りは、11 日 AM ターンに開始します。

ルール 27.1 : パイパーの突破は、11 日 AM ターンに発生します。

ルール 27.2 : スコルツェニーの浸透は、10 日 PM から 12 日 PM ターンに可能です。

ルール 29 : 18 日 AM のランダム・イベントは、12 日 AM ターンに振られます。

ルール 29、#1 : もしもこのイベントが振られ、フォン・デア・ハイテ中隊が存在したら 13 日 AM ターンの開始時に取り去られます。

ルール 29、#2 : もしもこのイベントが振られたら、12 日 AM と 12 日 PM ターンに SS の残虐行為が有効です。

ルール 29、#3 から #6 : もしもこれらの 1 つが振られたら、イベントは 12 日 AM ターンに発生します。

ルール 30、31、33、34 は、全て 10 日 AM ターンに適用します。これらは、シュネーアイフェル制限、可変奇襲シフト、モンシャウの砲兵制限、指揮官の対応加速です。

ルール 35 : ドイツ第 7 軍の守備隊要件は、12 日 AM から 15 日 PM ターンについて有効です。

ルール : 37.2d : ドイツ軍砲兵の指揮統制の制限は、10 日 AM から 12 日 PM ターンに有効です。

## 46.11 勝利条件 [Victory Conditions]

勝利条件は、ルール 17.1 から 17.6 に示されます。

### SCENARIO CREDITS

キャンペーン・ゲーム : Randy Heller

6 ターン・トーナメント・シナリオ : Randy Heller

8 ターン・トーナメント・シナリオ : Randy Heller

パットンのバスターニュ救援シナリオ : Bruno Sinigaglio, Randy Heller, Bob M. Ryan, Tom Gregorio

フォン・ルントシュテットのマルティン計画シナリオ : Bob M. Ryan

南肩部シナリオ : Bruno Sinigaglio

突出部の掃討シナリオ : Bruno Sinigaglio

拡張キャンペーン・ゲーム : Bruno Sinigaglio, Steve Likevich

早期アルデンヌ攻勢シナリオ : Bruno Sinigaglio

## 47. カンプフグルッペ・パイパー変更の歴史論文

[KAMPFGRUPPE PEIPER ALTERNATIVE HISTORICAL TREATISE]

Phil Evans

**DESIGNER EDITION BITTER WOODS (DEBW)** は、ドイツ軍の 1944 年 12 月アルデンヌ攻勢の、正確でリアルなシミュレーションを提供します。この記事は、ヴァリアント・ルール 36 について述べます。歴史的観点からのパイパー変更とプレイの提案を提供します。加えて、カンプフグルッペ (KG) パイパーの略歴とその戦闘順序を提供します。

### 47.1 パイパー変更手段とプレイヤーの注釈

[Peiper Alternative Tactics and Player's Notes]

パイパー変更 (PA) のプレイ・テストは、追加の移動と戦闘を考慮すると、17 日 AM ゲーム・ターンに **KG** パイパーを完全にブロックするのが非常に困難であることを示しました。第 3 SS 装甲擲弾兵大隊は非常に重要で、これは **KG** パイパーの一部が「2 ヘクス以内」の PA ルールのみに拘束されて、森林ヘクスを抜け、渡河を認めることになります。**KG** パイパーによる 17 日 AM の突破は、いまやより機動的余裕を持ち、続くターンに第 3 SS 装甲擲弾兵の森林での使用と渡河の脅威を繰り返し見せます。ただし、**PA KG** パイパー・ユニットは、第 3 SS 装甲擲弾兵大隊と共にスタックしない限り **ZOC** を持たないので、隣接する連合軍ユニットの重複 **ZOC** によって容易に包囲される可能性があります。ドイツ軍プレイヤーは、連合軍 **ZOCs** によって **PA KG** パイパーのユニットが個別に凍結されることを避けなければなりません。BW ルール 5.2 における 1 ヘクス移動の保証は脱出ルートを提供し、河川と連合軍の **ZOC** は **PA KG** パイパーに対して有効に使用できる手段です。

**PA KG** パイパー大隊の 1、2、3 個の予備状態は、いまや創造的な戦術計画を提供します。可変的な 17 日 AM の **KG** パイパーの突破は、例えば第 150 装甲旅団の成功した **ZOC** 浸透、SS 装甲恐慌、「Angriff aus der Bewegung」(aka : 「発音できない攻撃」) と組み合わせると、やり遂げることはゲーム的な挑戦です。

もしも **PA KG** パイパーが河川橋頭堡として使用されると、最も適した場所は町です。装甲大隊の 1 つを町ヘクス内に置きます。道路/橋梁ヘクスに隣接させて、他の **PA** 装甲大隊と共にスタックした SS 装甲擲弾兵大隊を置きます。例えば、ユイ (ヘクス 3907) 内の 1/ISS 装甲大隊、ヘクス 4006 内の第 3 SS 装甲擲弾兵大隊と第 501 重戦車大隊です。1/ISS 装甲大隊は **ZOC** を持ちませんが、14 の防御値 (7 の二倍) と 6 の ER は、適切な部隊の投入なしでユイを奪回することを困難にします。ヘクス 4006 は破碎地形で、そこに位置する 2 個 **PA KG** パイパー大隊に追加の防御特典を与えます。

パイパー指揮官の使用は、第 6 装甲軍に様々な予備ユニットを生み出すことができます。例えば、基本 BW (非 **PA**) ゲームで、第 6 装甲軍は自ら解放する予備の **KG** パイパーと、ディートリヒ指揮官によって解放される 1 つ、2 つ、3 つのその他予備第 6 装甲軍機械化ユニット (同じヘクス内の全てが同一ターンに開始します) を持つことができます。**PA** と共に、ディートリヒ指揮官は単一の **PA KG** パイパー予備大隊も解放でき (もしもターンの開始時に両者が

同じヘクス内にいたら)、2 個の予備 **PA KG** パイパー大隊はパイパー指揮官によって解放できます。ドイツ軍プレイヤーは、同じ機械化突破フェイズ (MEP) に 6 つまでの第 6 装甲軍機械化ユニットを持つことができます。パイパー指揮官によって解放された 3 個の **PA KG** パイパー大隊と、ディートリヒ指揮官によって解放されたその他の 3 つの第 6 装甲軍機械化ユニットです。

ただし、1 個 **PA KG** パイパー大隊を解放するためのディートリヒの使用は、全ての **PA** 大隊がパイパー指揮官単独で解放できるので有効にコストをかけられず、ディートリヒが他の第 6 装甲軍予備ユニットを解放させることを抑制します。基本 BW **KG** パイパー又は **PA KG** パイパーのどちらかで、ディートリヒと勇猛な **KG** パイパーが同伴している姿を見ることは稀です。ゲーム初期には、通常ディートリヒは第 12 SS 師団、第 150 装甲旅団、その他 2 個第 1 SS 装甲師団装甲擲弾兵連隊の近辺に位置します。

**PA KG** パイパー大隊ユニットを互いに分離させたままにしておくのは、選択的に攻撃され得るためリスクがあります。ゲームの序盤、個別の **PA** ユニットの 2 対 1 攻撃を獲得するためには、2 つの連合軍ユニット (プラスして使用可能ないずれかの米軍砲兵) のみが必要です。ドイツ軍プレイヤーは、**PA** を使用しているときに注意深く実行しなければならず、単独の **PA** ユニットの集中攻撃しそうな連合軍ユニットの「到達範囲」を計算します。到着している連合軍の増援を計算に含めることを忘れないようにしてください。1 つの **PA** ユニットの損失は致命的ではありませんが、少なくとも **KG** パイパーを永久に弱体化させます。1/ISS 装甲大隊又は SS 装甲擲弾兵大隊のどちらかの損失は、第 1 SS 装甲の同一師団効果 (側面攻撃と連携防御) を打ち消すことになります。

1/ISS 装甲大隊と第 501 大隊の両者は SS 装甲恐慌を持ち、ドイツ軍プレイヤーは 1 ターン内に **PA KG** パイパーによる個別の CRT 2 コラムシフトの特典を持つ可能性があります。例えば、17 日 AM 突破ターンに、1/ISS 装甲大隊は通常戦闘フェイズ中に攻撃でき、17 日 AM MEP 中に第 501 大隊を予備として解放でき、自身の攻撃を実施します。17 日 AM MEP における **KG** パイパーの好ましいイベント目標は、米軍砲兵ユニットと減少状態の第 1 軍ユニットです。

**PA** の 1 つの側面は、**KG** パイパーの戦力全体に追加の特典をもたらします。基本 BW の **KG** パイパー・カウンターと異なり、**PA KG** パイパーは **PA** ユニットの 1 つ以上のステップ損失の結果として直ちに 8 戦闘値まで減少しません。ドイツ軍プレイヤーはこの強力なユニットがステップ損失するリスクを嫌うため、単一の BW **KG** パイパーが 17 日 AM 突破ターンに攻撃するのは本意です。ただし、**PA** では、例えば 1/ISS 装甲大隊の 1 ステップ損失は、最大の **KG** 戦闘値減少は 15 から 11 になります。加えて、**PA KG** パイパーは固有の長寿性を持ちます。退却を損失に変換させる際のパイパー指揮官の賢い使用は、**PA KG** パイパーを完全除去の前に 6 ステップ損失まで耐えさせます (もしもパイパー指揮官を含むと 7 です)。

ゲーマーたちがパイパーの歴史的ルートの実施を試みると、単一の BW **KG** パイパー・カウンターは、米軍ユニットのヘクス 1309、1510 (マルメディ)、1513、1612 内への配置によって効果的に制限されます。森林ヘクス 1613 内にユニットを置くことは、17 日 AM ターンに **KG** パイパーは連合軍 **ZOC** から免疫なので、もちろん彼らを停止させません。ただし、ヘクス 1513 又は 1612 を占めるだけで 1712 内の砲兵をバックアップし、スターヴロー内又はヘクス 1812 内への道路への戦闘後前進を効果的にブロックします。また、単一の BW **KG** パイパー・ユニットは、いかなる森林ヘクスも通過して移動できません。これらの拘束によって制限され、**KG** パイパーはヘクス 1611 内のみ移動できますが、**KG** パイパー・カウンターは装甲 (ティーガー II) シルエットなので、たとえヘクス 1712 内の米軍砲兵ユニットの攻撃に成功しても、非橋梁河川ヘクスサイドを越えて移動できません。これに直面したドイツ軍プレイヤーは、ヘクス 1513 を通して移動と攻撃するために努力しますが、これはこの地域内で唯一の退出ルートはヘクス 1712 を通してです。森林ヘクス 1713、1714、1613 にプラスして軍境界線は、**KG** パイパーのいかなる機動も妨げます。ただし、**PA KG** パイパーでは、ヘクス 1613、1713、1714、1814 が第 3 SS 装甲擲弾兵大隊の移動について



て使用可能で、ヘクス 1914 の橋梁への前進とトロワ・ポンへの接近を認めます。更には、森林ヘクス 2213 を通過する第3SS 装甲擲弾兵が、森林／道路ヘクス上の 1/1SS 装甲及び第501 大隊に支援されてリエヌ (ヘクス 2211～2313) に接近可能です。これらは、パイパーの変更が提供する機会のたった2つの例です。17 日 AM の突破と続くターンについての *KG* パイパーの別の街道を考慮すると、PA の使用がアルデンヌの陰謀に多くの時間を与えることになりま

#### 47.2 PA *KG* パイパー強行突破のシナリオ

[PA *KG* Peiper Breakout Scenarios]

上記の 16 日 AM の真北にある第14 騎兵と第99 歩兵師団の2個連隊に対する平均的な結果は、ドイツ軍プレイヤーに迅速な報償をもたらすこととなります。第14 への D3 又は D4 は、99/394 を包囲して3対1 攻撃で除去の結果となります。99/393 への D2 又は D3 は、第6 軍国民擲弾兵によるロッペラートークリントの占領となるでしょう。これらの戦闘結果は、アメリカ軍の前線に塞ぐことが困難な隙間を生み出します。連合軍プレイヤーは、予備の *KG* パイパーが 16 日 PM ゲーム・ターンに破壊的な MEP 移動を獲得しないことを認識しなければなりません。もしもシュタットキル～ロースハイム～0613～0714～0914～1113 のルートが開かれていたら、PA *KG* パイパー・ユニットはヘクス 1212 へ到達するために各 10 移動ポイントを消費できます。次いで、もしも 1313～1513 ～スターヴローの道路が開かれていたら、1/1SS 装甲大隊は残っている 15 移動ポイントでラ・グルエーズへ機動し、第3SS 装甲大隊はトロワ・ポンへ、第501 重戦車大隊はスターヴローへ入ります。移動終了時に、全ての PA ユニットの互いに2ヘクス以内にあることに注意してください。この移動は、見た目は印象的ですが、全ての PA *KG* パイパー大隊が離ればなれとなり、互いを支援するための固有 ZOC を相互に持たず、個別に孤立しています。もちろん、連合軍プレイヤーは、16 日 AM ターンに使用可能なこの重荷への対応策を持ちません。

このありそうもないシナリオを更に進めると、17 日 AM ターンに全ての PA *KG* パイパー・ユニットは大胆にその全 24 移動ポイントを消費し (連合軍の ZOC によって妨害されずに)、ムーズ川まで一人旅します。ゲームのこの初期段階では、アメリカ軍ユニットはエワイユ、ウェルボモン、ウッフエ、ヘクス 2911 のウルト川橋梁にいないと仮定されます。PA 1/1 SS 装甲大隊は 17 日 AM ターンをヘクス 3905 で、第3SS 装甲擲弾兵大隊はユイ又はヘクス 4006 で、第501 重戦車大隊はヘクス 3706 で終了できます。PA *KG* パイパー大隊は分離して互いに支援するための固有 ZOC を持ちませんが、至近の「O」ヘクス 2701 に到着する第7機甲師団のユニットは、移動制限のために脅威ではありません。

このシナリオの変更としては、PA ユニットの 17 日 AM のストゥーモン奪取ですが、「2ヘクス以内」の PA ルールは、*KG* パイパーのスターヴロー保持を、ヘクス 2011 又はラ・グルエーズを占めている PA ユニットの依存することになります。「2ヘクス以内」ルールは、PA *KG* パイパーが同時にスターヴロー、トロワ・ポン、ストゥーモンを確保することも妨げます。より積極的なドイツ軍プレイヤーは、スターヴローに先んじてストゥーモンとリエンス川に架かる橋梁の奪取を支持するでしょう。

第6 軍の 16 日 PM MEP は、16 日 AM ゲーム・ターンにヘクス 0308 へディートリヒ指揮官を移動させることで最大にできます。これは、12/25 SS 装甲擲弾兵を予備状態に置き、16 日 PM MEP に解放させることを可能にします。仮定 (1) 緒戦の第6 装甲軍の 99/393 への攻撃が道路ヘクス 0609～0610 を掃討し、(2) ドイツ軍の 16 日 PM の攻撃が成功したら、12/25 SS 装甲擲弾兵は 16 日 PM MEP 中にヘクス 1514 又は 1315 へ前進できます。第6 装甲軍歩兵の 16 日 AM と 16 日 PM の前進も、ヘクス 1113 と 1212 を占領することで展開させます。これは、北からサン・ヴィットへ圧力を加え、より重要なことにヴィエルサルムも脅かし、ポトーの方向から西を指します。軍境界線が第6 装甲軍機械化ユニットの道路使用を 19 日 AM ターンまで妨げるため、ここではドイツ軍歩兵を積極的に使用する必要があります。

ほとんどの場合、ドイツ軍の 16 日 AM の攻撃は、これまで述べ

た劇的な結果を獲得しません。おそらく、第14 騎兵への重要な D3 又は D4 の戦闘結果はほぼ 20%で、続く 99/394 の除去は 15%の確率に過ぎません。連合軍の稚拙なプレイを別にすれば、このシナリオは滅多に起きません。17 日 AM のより典型的な *KG* パイパーの突破のため、伝統的な「三角形」防御が使用できますが、PA *KG* パイパーによってヘクス 1612 と 1513 は第3SS 装甲擲弾兵大隊からの包囲攻撃を受けることになります。

16 日 AM と 17 日 AM のドイツ軍の攻撃は、シェンブルクを介してサン・ヴィットへの装甲教導師団によるハンマーの一撃を含めなければなりません。軍境界線は第6 装甲軍の機械化ユニットがこのルートから展開することを妨げますが、シェンブルク～サン・ヴィット～ポトーを介しての第5 装甲軍の攻撃は、道路ヘクス 0914、1315、1514 を通過する第6 装甲軍と *KG* パイパーの自由な機動をかなり促進させます。経験豊富な連合軍プレイヤーは、ドイツ軍の戦闘後の縦深突破を妨げるため、自軍ユニットを非道路森林と破碎地形ヘクス上に配置するでしょう。この目的のため、ヘクス 1014 は 16 日 AM にしばしばアメリカ軍ユニットによって占められます。ただし、気まぐれな軍境界線ルールは第5 装甲及び第6 装甲軍の両方から攻撃を受けます。ヘクス 1113 (アンブレヴ) は、連合軍プレイヤーにとってより防御に適した位置ですが、ゲームの初期におけるエルゼンボルン、サン・ヴィット、ヴィエルサルム、トロワ・ポン間の地域は、パイパーの変更がイン・プレイになることでしばしば米軍にとって「死のゾーン」になります。

ドイツ軍の 16 日 PM と 17 日 AM ターンは、シェンブルク、ビューリンゲン、エルゼンボルン間で第6 装甲軍が米軍ユニットに高比率攻撃を見せるべきです。これは、米軍ユニットの ZOC を通過移動して重要な包囲攻撃を加える第150 装甲旅団を使用する絶好の瞬間にもなり得ます。シェンブルクとエルゼンボルン間での第12SS 装甲師団の使用は、ヘーフェン又はモンシャウに対する攻撃よりも生産的になり得ます。D3 と D4 の結果は、ヘクス 0914、ビューリンゲン、ヘクス 1011、Dom (フランスのドメヌ [Domaine] の略称) ビュートゲンバッハ間の道路ヘクスの1つを開くために必要です。これらのルートのどれも、*KG* パイパーと 12/25 SS 装甲擲弾兵が 16 日 PM MEP に移動通過するために開かれるかもしれません。ドイツ軍プレイヤーは、自軍の MEP 移動のために開口部を生み出すことを保証するため、戦闘後の米軍ユニットの退却ルートを注意深く計算する必要があります。D3 と D4 の結果は、退却したユニットを D1 又は D2 の結果よりもより適した妨害位置に置きます。もしも 16 日 PM に悪い結果が発生したら、*KG* パイパーはそれでも 17 日 AM ターンの初期移動フェイズ又は MEP のどちらかで、別の突破機会を持ちます。

ビューリンゲン～1310～1407～ベルビエ・アクシスのような他のルートは、*KG* パイパーに適したものになり得ます。フランコルシヤンの燃料集積所は、ここで 1608 又は 1609 森林ヘクスからの第3SS 装甲擲弾兵大隊によって脅かされ得ます。ただし、*KG* パイパーのマルメディ支配と両橋梁の隣接は、全 PA ユニットの互いに2ヘクス以内に存在する必要があります。結局、北方の「リトル・スラム」攻撃における PA の使用は、第2 及び第99 歩兵師団の複合包囲の結果になり得ます。

#### 47.3 *KG* パイパーの史実強行突破 [KG Peiper's Historical Breakout]

実際の戦役では、第3 降下猟兵 (FJ)、第12、第277 国民擲弾兵 (VG) 師団は、第99 歩兵師団又は第14 騎兵に対する初期の攻撃で、見るべきものはほとんどありませんでした。これら2 個米軍組織の戦闘経験不足は、ドイツ軍初期攻撃の無残な結果によって償われました。最大限の奇襲を達成すべく、ドイツ軍のアルデンヌ攻勢準備は厳格な秘密の下で保たれたため、攻撃前の偵察はほとんどあるは全く実施されませんでした。第6 装甲軍にとって不幸にも、その限定された情報は、第V 軍団砲兵と第99 師団の前線内に配置された古参の第2 歩兵師団の全貌を察知しませんでした。第6 装甲軍は、アメリカ軍部隊の薄い戦線を集中した歩兵と砲兵で圧倒し、次いで第1SS 装甲軍団によって二～三日間で迅速にムーズ川まで進撃することを想定しました。

アルデンヌ反撃攻勢の計画で、ディートリヒは第1SS 装甲軍団

の緒戦投入を提唱しましたが、B軍集団司令官モデルによって覆されました。12月上旬まで、第6装甲軍によって精巧な欺瞞が行われ、最後の会議で第1及び第12SS装甲師団は当初の強襲に使用されないことが決まりました。第6装甲軍の初期攻撃は、もしも第1SS及び第12SS装甲師団の戦車と装甲擲弾兵が直ちに投入されていたら、より良い結果になっていたでしょう。その代わりに、訓練不足の国民擲弾兵と降下猟兵多数が、12月16日に米軍砲兵と歩兵による直接射撃の犠牲となり、重要な見返りはありませんでした。結果的に、第1SS装甲師団のKGは、少なくとも12時間遅らされました。第12国民擲弾兵が16日の早期にロスハイマーグラーベンの掃討に失敗したことは、計画された前進で国道1号の優良道路がこの村を通過しなければならなかったため、パイパーにとって特に負担でした。迂回を強制されたKGパイパーは、ビューリンゲン近郊で割当てられたルートを回復する前に時間と燃料を浪費しました。17日の朝までに、KGパイパーはなんとか弱体な敵を払いのけて西へ進撃しました。スケジュールは遅れましたが、KGパイパーはムーズ川に到達するために必要な決定的突破を達成したように思われます。ただし、時間はパイパーの味方ではなく、彼が停止して17日の夕方にスターヴローを攻撃しないと決断したことは重大な結果となりました。その日の午後、パイパーはリーヌヴィルでSS上級大佐ヴィルヘルム・モンケ（第1SS装甲師団長）と会談し、2000時頃にスターヴローに接近したとき、KGスピッツ（*Spitz*）（「点」）は先鋒ではありませんでした。スピッツと少数のアメリカ軍道路封鎖隊との間の激突は、スターヴローが堅く防御されているとパイパーに確信させ、密集したアメリカ軍車両が点すヘッドライトの安定した流れにより、その印象は増幅されました。リーヌヴィルへの道路上で伸びきったKGの縦隊を再編する必要性、アンブレレーヴ川に架かる橋梁（事前に準備されていましたが、実際には爆破されなかった）を強襲するための歩兵不足、KG兵士の疲労などが、パイパーの躊躇に貢献したのかも知れません。この躊躇いについての憶測はいまだに議論を呼びましたが、1976年にパイパーは不幸にも殺され、これらの事件に関する真相究明を妨げました。戦後の尋問でもたらされたパイパーの証言は決定的と見なすことができず、いくつかの真実が矛盾し、当時の彼は厳しい監獄生活の影響で記憶障害を被っていました。

もしもパイパーが17日の夜にスターヴローを通過して進撃していたら？ アンブレレーヴ川とザルム川にトロワ・ポンで架かる橋梁は18日の朝遅くなるまで爆破準備ができておらず、KGパイパーが早期に到着していたら捕獲していたはずでした。これは、同じ日にザルム川とリエンス川の無抵抗渡河を導いたでしょう。第82空挺師団は19日の朝にウェルボモンへ到着したばかりで、第504及び第505落下傘歩兵連隊の護衛なしのトラック段列は、KGパイパーのパンターやティーガーIIに頭から突っ込んで破壊的な結果になり得ました。ただし、ここまでにパイパー縦隊の存在は第1軍に知られており、戦闘工兵、第82空挺、第30歩兵、第3機甲師団を構成する部隊の到着は、ウェルボモンとムーズ川との間のどこかでKGと交戦することになったでしょう。

KGパイパーがトロワ・ポンを奇襲していたと仮定して、第1SS装甲師団の他のKG又は第12国民擲弾兵及び第3降下猟兵師団がスターヴローとトロワ・ポンを通過して迅速に追従し、突破口を拡大してKGパイパーを補給下に保てたかどうかは疑問です。第1SS近隣の第12SS装甲師団はいまだ開始線にあり、ロッヘラートとクリンケルトの奪取に挑んで終始交戦し、パイパーを直ちに救援することはなかったでしょう。おそらくより重要なのは、パイパーがどれだけ西へ進撃したとしても、スターヴローを奪回したアメリカ軍の反撃とエルゼンボルン尾根、マルメディ、サン・ヴィットの頑強な防御がKGの補給線を断ち続けることです。パイパーは、自身が孤立し、燃料が底を尽き、アメリカ軍の大きな注意を引いていることに気づき、おそらくムーズ川の手前で停止したでしょう。

それにもかかわらず、12月17日夜のパイパーの躊躇は、アメリカ軍に貴重な時間的余裕をもたらし、18日以降のKGの任務にとって凶事の流れとなります。最重要なのは、第291戦闘工兵大隊によって、トロワ・ポンの橋梁とハビモント近郊でニューフモリン川の橋梁が爆破されたことです。ウェルボモンへの通路を否定された

KGパイパーは、ここで狭隘なアンブレレーヴ川溪谷に制限されました。パイパーは、12月19日にストゥーモンを越えて攻撃することにより、ムーズ川突破への最後の試みを行いました。その日の午後遅く、第30歩兵師団の一部により、ストゥーモン駅の西で彼の先導パンター部隊が撃破されたときに到達した最高潮でした。

燃料と弾薬の備蓄減少と第1SS装甲師団の残りからの断絶に直面し、パイパーはラ・グルエーズで「輪型に守りを固め」、そこで米軍砲兵と第82空挺、第30師団、第3機甲師団の集中攻撃により粉碎されました。

12月25日までに、第501重戦車大隊に元々「存在して」しかも「移動状態」だったティーガーII 15両全て、KGパイパーの1/1SS装甲と第3装甲擲弾兵大隊の装備と車両、付属したI.W. Flak、第1SS装甲連隊司令部のほぼ全てが損失として計上されました。

KGパイパーに付属した全ての戦車が、スターヴローでアンブレレーヴ川を渡って北へ移動し続けたわけではなく、KGの最終崩壊から予備にされました。特に、18日の夕方まで燃料切れだった第6及び第7中隊は、KGが通過したスターヴローを第30歩兵師団1/117が奪回したため、本隊に合流できませんでした。ただし、スターヴローが失われる前には、第6中隊のIV号戦車4両と中隊指揮官並びにそのIV号戦車（SS-Obersturmführer以後 *Ostuf.* Benoni Junker 第6中隊、SS-Hauptsturmführer以後 *Hstuf.* Oskar Klingelhofer、第7中隊）は、他の車両から燃料を供給されてKGと合流できました。後に、これら2個中隊は第1SS装甲師団の残りと共にバスターニュへ移され、KGハンセン、KGザンディヒ、クニッテル快速集団の一部（クニッテルとその指揮下部隊の一部は、スターヴローからのルートが閉ざされる前にKGパイパーと合流しました）、第1SS装甲砲兵連隊、第1SS工兵大隊に組み込まれました。第1SS装甲師団と第501重戦車大隊は、12月30日にリュトルボワでパットンのバスターニュ救援回廊切断の試みに参加しました。

カンプフグループ・パイパーの元々の編成は約4,800名の将兵と800を超える車両で、パイパーは生き残りの僅か700名を率いて、クリスマスの日にトロワ・ポン南のドイツ軍戦線に徒歩で帰還しました。

#### 47.5 KGパイパーの編成表 [KG Peiper Table of Organization]

KGパイパーの歴史的背景、大隊と中隊レベルの編成を以下に示します。完全な正確性は求めないでください。使用された原資料は、この記事の最後に列記します。アルデンヌ愛好家は、KGパイパーの追加情報について大量の研究素材（オンラインの原資料を含む）にアクセスすることを推奨します。

#### 第1SS装甲師団 LAH 第1SS装甲連隊 HQ (Obersturmbaunführer Jochen Peiper)

HQ 中隊 V号戦車パンター2両

Sd Kfz 251 (様々な形式)

半装軌式車両又はより正確には：

半装軌式「特殊目的車両」ハーフトラック

HQ 中隊 (*Ostuf.* Rudi Maule)

連隊外科医：*Hstuf.* Dr. Kurt Sickel

連隊整備将校：*Ostuf.* Horst Gülden

行政将校：*Hstuf.* Ernest Drube

第9SS工兵中隊 (*Ostuf.* Erich Rumpf)

注釈：架橋機材なし

第1小隊 Sd Kfz 251

第2小隊 Sd Kfz 251

第3小隊 オートバイ

第3SS工兵中隊 (*Ostuf.* Franz Sievers)

注釈：歩兵協数橋 Sd Kfz 251/7

第1小隊 Sd Kfz 251/7

第2小隊 Sd Kfz 251/7

第3小隊 オートバイ

第4小隊 オートバイ



第10SS 装甲 Flak 中隊 (*Ostuf.* Karl-Heinz Vogler)

- 第1小隊 37mm 砲4門 Sd Kfz 6/2/7
- 第2小隊 20mm 砲4門 Sd Kfz 251/17
- 第3小隊 20mm 砲ヴィルベルヴィント3両

第1 SS 装甲砲兵大隊 (*Haupt.* Ludwig Kalisko)

- 第1砲兵中隊 105mm 牽引砲6門 (Neugebauer)
- 第2砲兵中隊 105mm 牽引砲6門 (Werner)
- 第3砲兵中隊 105mm 牽引砲6門 (Friest)

1/1 SS 装甲整備中隊 (*Ostuf.* Wilhelm Ratscko)

## 第84 LW Flak 大隊の一部 (LW von Sacken 少佐)

- 中隊 3.7cc Sd Kfz 6/2
- 中隊 2cc Sd Kfz 7/2
- 中隊 2cc Sd Kfz 251/17
- 中隊 3.7cc Sd Kfz 7/2

LAH 第1 SS 装甲連隊第1 SS 装甲大隊  
(*Sturmabführer* Werner Poetschke)

1/1 SS 装甲大隊 HQ 中隊 V号戦車 G 型2両 (*Ustuf.* Rolf Bucheim)

搜索小隊: (*Hstuf.* Paul Ochman) / 信号小隊: (*Ustuf.* Rolf Bucheim)

1/1 SS 補給中隊 (*Hstuf.* Ernest Otto)

大隊外科医: *Hstuf.* Rudolf Neumayer

大隊整備将校: *Ostuf.* Otto Ienthal

行政将校: *Ustuf.* Pulst

第1中隊 V号戦車 G 型17両 (*Ostuf.* Karl Kremser) 3個小隊

第2中隊 V号戦車 G 型17両 (*Ostuf.* Friedrich Christ) 3個小隊

第6中隊 IV号戦車 J 型17両 (*Ostuf.* Benoni Junker) 3個小隊

第7中隊 IV号戦車 J 型17両 (*Hstuf.* Oskar Klingelhofer) 3個小隊

LAH 第2 SS 装甲擲弾兵連隊第3 SS 装甲擲弾兵大隊  
(*Hauptsturmführer* Josef Diefenthal)

注釈: この装甲擲弾兵部隊は、第1 SSSLAH 第2 SS 装甲擲弾兵連隊 (*KG Sandig*) から移管されました。

第2 SS 装甲擲弾兵中隊 (*Ostuf.* Wolfgang Lüdecke)

大隊外科医: *Ostuf.* Dr. Willibald Dittmann

大隊整備将校: *Ostuf.* Kurt Mielke

第9装甲擲弾兵中隊 Sd Kfz 251 & トラック (*Ustuf.* Max Leike)

第10装甲擲弾兵中隊 Sd Kfz 251 & トラック (*Ostuf.* Georg Preuss)

第11装甲擲弾兵中隊 Sd Kfz 251 & トラック (*Ostuf.* Heinz Tomhardt)

第12装甲擲弾兵中隊 Sd Kfz 251 & トラック (*Hstuf.* Jochen Thiele)

第13重砲兵中隊 150mm 牽引砲 (*Ostuf.* Koch) (1/G/SS 装甲擲弾兵)

## 第501SS 重戦車大隊

(*Obersturmbannführer* Heinz von Westernhagen)

大隊 HQ 中隊 Sd Kfz 182 VI号戦車 B 型3両

ティーガー-007 (*Obst.* Von Westernhagen)

ティーガー-008\* (*Adjutant*—*Ustuf.* Eduard Kalinowsky)

ティーガー-009 (*Obersturmführer* Dollinger)

\*1944年12月25日、スターヴローの西1キロメートルにあるフェルム・アントワヌで、乗員によって遺棄されました。

認可 HQ 中隊 Sd Kfz 251/5 4両 搜索

Sd Kfz 251/1 6両

Sd Kfz 251/7 3両 工兵

数量不明—Sd Kfz 9 (18トン牽引車両)

大隊輸送将校: *Ostuf.* St.O.JK. Hubert Hartmann

大隊整備将校: *Ostuf.* Georg Bartel

大隊外科医: *Hstuf.* Dr. Wolfgang Rabe

大隊行政将校: *Ostuf.* Alfred Veller

第501大隊補給中隊 (*Ostuf.* Paul Vogt)

第1中隊 HQ Sd Kfz 182 VI号戦車2両

(*Obersturmführer* Jürgen Wessel)

ティーガー-104 (*Oberscharführer* Sepp Franzl)

ティーガー-105\* (*Ostuf.* Wessel)

\*12月18日に、スターヴローの RN23, Rue Haute Rivage 上の家屋に戻され回復不能。

第1小隊 Sd Kfz 182 VI号戦車ティーガー4両、111~114

ティーガー-111 *Obersturmführer* Rolf Hennizes

ティーガー-112 *Oberscharführer* Hein Bode

ティーガー-113 *Oberscharführer* Fritz Zahner

ティーガー-114 *Oberscharführer* Helmut Frische

第2小隊 Sd Kfz 182 VI号戦車ティーガー-121~124

ティーガー-121 *Untersturmführer* Heinz Büchner

ティーガー-122 *Oberscharführer* Paul Steinwender

ティーガー-123 *Standartenjunker* Franz Staudegger

ティーガー-124 *Oberscharführer* Armo Salamon

第3小隊 Sd Kfz 182 VI号戦車ティーガー-131~134

ティーガー-131\* *Oberscharführer* Jürgen Brandt

ティーガー-132 *Unterscharführer* Willi Otterbein

ティーガー-133\* *Oberscharführer* Werner Wendt

ティーガー-134 *Unterscharführer* Helmut Dannleitner

\*KG Knittel (第2SS 搜索中隊) 内で機能。12月19日、スターヴローを攻撃 (RN23, La Gleize-Petit Spai 橋梁の方向から)。ティーガー-133は、Petit Spai 橋梁付近で遺棄されました。

第2中隊 HQ Sd Kfz 182 VI号戦車2両

(*Hauptsturmführer* Rolf Möbius)

ティーガー-204\* (*Unterscharführer* Dduard Stadler)

ティーガー-205 (*Haupt.* R. Möbius)

\*ラ・グルエーズの東にある果樹園内に遺棄されました。スパへの進撃を試みた米軍工兵によって無傷で発見されました。エンジンが火災を起こして車両は遺棄され、後に解体されました。

第1小隊 Sd Kfz 182 VI号戦車ティーガー4両、211~214

ティーガー-211 *Obersturmführer* Helmut Dollinger

ティーガー-212 *Überscharführer* Paul Klose

ティーガー-213\* *Überscharführer* Franz Faustmann

ティーガー-214\*\* *Überscharführer* Ludwig Eser

\*現在は、ラ・グルエーズの歴史博物館の外に展示されています。

\*\*N 106 上で米軍部隊によって捕獲されました。

第2小隊 Sd Kfz 182 VI号戦車ティーガー4両、221~224

ティーガー-221\* *Untersturmführer* Georg Hantusch

ティーガー-222\*\* *Oberscharführer* Kurt Sova

ティーガー-223 *Oberscharführer* Grätzer Müller

ティーガー-224 *Überscharführer* Armo Grätzer

\*最後の位置 (ガス欠) は、ラ・グルエーズの Weirmont 農場。

\*\*12月19日に KG Sandig のストゥーモン攻撃を支援する間にストゥーモン内 (アンブレウ橋梁の南岸) で擱座しました。これは、第3降下猟兵師団第9FS 連隊の降下猟兵たちが跨乗した写真と同じティーガーです。

第3小隊 Sd Kfz 182 VI号戦車ティーガー4両、231~234

ティーガー-231 *Unterscharführer* Walter Hahn

ティーガー-232 *Unterscharführer* Ewald Mölly

ティーガー-233 *Oberscharführer* Georg Löttsch

ティーガー-234 不明

第3中隊 HQ Sd Kfz 182 VI号戦車2両

(*Hauptsturmführer* Heinz Birnschein)

ティーガー304 不明

ティーガー305 (*Haupt*.H. Birnschein)

第1小隊 Sd Kfz 182 VI号戦車ティーガー4両、311～314

ティーガー311 *Untersturmführer* Thomas Anselgruber

ティーガー312 *Oberscharführer* Heinrich Ritter

ティーガー313 *Oberscharführer* Peter Kisters

ティーガー314 不明

第2小隊 Sd Kfz 182 VI号戦車ティーガー4両、321～324

ティーガー321 *Untersturmführer* Winfried Lukasius

ティーガー322 *Untersturmführer* Herbst

ティーガー323 *Oberscharführer* Fritz Renfordt

ティーガー324 不明

第3小隊 Sd Kfz 182 VI号戦車ティーガー4両、331～334

ティーガー331 *Hauptsturmführer* Rolf von Westernhagen

ティーガー332\* *Unterscharführer* Otto Blase

ティーガー333 *Oberscharführer* Heimo Traue

ティーガー334 不明

\*クー近郊で捕獲され、現在はケンタッキー州フォート・ノックスの  
パットン騎兵と装甲博物館にあります。

第4中隊 (*Hstuf* Wilhelm Spitz)

搜索小隊 (*Hscha.* Martin Appelt)

工兵小隊 (*Ustuf.* Walter Brauer)

Flak 小隊 (装備改変中で戦役に不参加)

#### 47.5 KG パイパー結び [KG Peiper Epilog]

第501重戦車大隊は、公式には45両のVI号戦車を有していましたが、12月10日には15両が「存在」して「移動状態」で、30両は配備途上となっています。アルデンヌ攻勢中、故障、道路渋滞、燃料切れのためこれらはパイパーに追いつくことができませんでした。12月16～31日の間に、13両のティーガーIIが失われたと記録されました。2両がスターヴロー、2両がスターヴローとトロワ・ポンの間、1両がプティ・スパイ、6両がラ・グリエーズ、2両が位置不明です。最後にラ・グリエーズ内のパイパー周囲には4両のティーガーIIがあり、全てがクー、ロアンヌ、ボルグーモン、ストゥーモンからの接近路をカバーするための位置でした。残りの2両については、1両は最後にラ・グリエーズ真東のミニエレスに位置し、1両(ティーガー334号車)はボルグーモンへの道路上を北0.5キロにありました。

第501重戦車大隊は、ラ・グリエーズにおけるKGパイパーの壊滅後もアルデンヌ戦役で作戦を継続しました。同大隊は、第1SS装甲師団の残余と共に第5装甲軍へ移管され、バスターニュ周辺を掃討するための企てに参加しました。アルデンヌ戦役には、第506重戦車大隊のVI号戦車ティーガーIIも従事しました。ただし、12月16日には第506重戦車大隊のティーガーは、8両のみ存在しました。同大隊は、バスターニュで闘いました。ティーガーIを持つ「第301FKL(無線/指揮)重戦車大隊も、アルデンヌ攻勢に参加していた記録があります。その中の1両(ティーガー411号車)は、オーバーワンバッハ近郊で撃破されました。

#### 47.6 史資料：カンプフグルッペ・パイパーと変更パイパー

[Sources : Kampfgruppe Peiper and the Peiper Alternative]

Agte, Patrick, Jochen Peiper – Commander Panzerregiment Leibstandarte. J.J. Fedorowicz Publishing, Inc., 1999.

Chamberlain, Peter, and Doyle, Hilary, Encyclopedia of German Tanks of WWII. Arms & Armour Press, 2000.

Cole, Hugh M. The United States Army in WWII, ETO, The Ardennes : Battle of the Bulge. Washington, DC, 1965.

Gregoire, Gerard, Les Panzer de Peiper face a l'US Army. Printed by J. Chauveheid, Stavelot, Belgium, 1986.

Jentz, Thomas L., & Doyle, Hilary L., Germany's Tiger Tanks. Schiffer Publishing Co., 1997.

Lehman, Rudolf, 1<sup>st</sup> SS Pz Corps, 15 Oct–16 Dec 1944. Foreign Military Studies Ms # B-577.

Nafziger, George F., The German Order of Battle—Panzers & Artillery in WWII. Greenhill Books, London, 1999.

U.S. War Dept Tech Manual TM-E30-451, Handbook on German Military Forces, 1945.

Pallud, Jean Paul, The Battle of the Bulge—Then and Now. Battle of Britain Prints Intl., Ltd., London 1996.

Pergrim, David COL (USA Ret), Engineering the Victory. Schiffer Publishing Co., 1996.

Priess, Hermann (GenLt der Waffen SS), Commitment of 1<sup>st</sup> SS Pz Corps, Ardennes Offensive. Foreign Military Studies MS # A-877.

Reynolds, Michael, The Devil's Adjustment. Sarpedon Publishers, London, 1995.

Rusiecki, Stephen M., The Key to the Bulge—The Battle for Losheimergraben. Praeger Publishers, 1996.



## 48. アルデンヌの砲兵 [ARTILLERY IN THE ARDENNES]

### 歴史的論文 [A HISTORICAL TREATISE]

Bruno Sinigaglio

**エディターの注釈：**民間技術者として、Bruno は 25 年の間、米国陸軍の兵器と研究と開発のために働きました。軽、中の野戦榴弾砲、砲兵弾薬、砲兵の指揮統制システム、M1A1 エイブラムス戦車、M5A1 ブラッドレイ戦闘車両を含む、多くのタイプの兵器を扱っている陸軍第 192 部局の技術報告書の記述者又は準記述者です。米国陸軍砲兵科への貢献により、彼は 1989 年にオクラホマ州フォート・シルにある米国陸軍野戦砲兵学校から聖バーバラ勲章を受けました。

### 48.1 近代の砲兵システム [The Modern Artillery System]

Barrie Pit によると、「1914 年以前の優れた砲手は、牽引を解いた砲を戦闘に疾駆させ、開かれた視界の中で可能な限り短時間に多数の砲弾を撃ち込みました。」1914 年の英、仏、独の砲兵は、直接射撃によって可視目標と交戦するよう訓練されていました。塹壕と機関銃がこの実践を変更させ、西部戦線の大軍による砲兵システムは、戦場の洗礼を受けた「戦場の女王」として革新的な発展を遂げました。

1915 年 3 月、ヌーヴ・シャペルで始められた間接射撃が通常となりました。前方観測者のみが目標を視認し、砲は科学的手段を用いて照準しました。最終的には、標定手順が標準化され、視認できずに砲撃する訓練を受けた専門家が砲兵指揮所に集められました。砲兵システムが誕生したのです。

予想されるとおり、第二次世界大戦における合衆国、大英帝国、ドイツの砲兵システムは、最も進歩したものでした。研究と開発はいくつかの領域に分かれましたが、概ねこれらの戦闘システムは、前方観測情報、音と閃光の方向、科学的射撃管制、無線ネットワークの活用など類似したものでした。最後のアイテムは、どんなに強調しても、し過ぎるものではありません。加えて、これらの国は、厳格かつ集中的に、競争で訓練を実施しました。

### 48.2 イギリス軍の標準連隊集中

[The British Standard Regimental Concentration]

イギリス軍における弾幕への 1 つの応用は、標準連隊集中でした。口語では「集中砲火『Stonk!』」と呼ばれ、525 ヤード正方形内への砲弾の雨です。これは迅速に計算してマップ上へプロットし、迅速に攻撃下の部隊を支援できました。その寸法は、イギリス軍砲兵連隊 4 個大隊に規定された砲から計算された、全発射砲弾の致死量によって判定されました。もしも集中砲火が正方形内の占有者を死傷させなくても、通常はそれらに衝撃効果を与え、重要な時間について無力化しました。アメリカ軍とドイツ軍の実践方法は類似しており、同じ結果を生み出しました。砲の数や目標地域の規模の違いにかかわらず、第二次世界大戦において「集中砲火」の言葉は普遍的になりました。歩兵は、この用語の定義を熟考しませんでした。効果的な砲兵支援が必要なとき、彼らは集中砲火を要求しました。デザイナー・エディション Bitter Woods とその旧版では、この戦術は「砲撃」[「Bombardment」]として言及されます。

### 48.3 ドイツ軍の砲兵 [German Artillery]

#### 48.3A ドイツ軍の秘密兵器！ [German Secret Weapon]

第二次世界大戦で最も過小評価された兵器の 1 つは、ドイツ軍の 150-mm ネーベルヴェルファー 41 ロケット砲とヴルフグラナーテ 41 ロケット弾シュプレング [Wurfgratante 41 Spreng projectile] でしょう。

ネーベルヴェルファーは、攻勢作戦のための砲撃兵器としてクンマースドルフ試験場で設計されました。このシステムの進化は、1930 年に開始された設計プログラムによるものです。ヴェルサイユ条約がドイツ軍の砲兵研究と生産を制限したので、拘束がなかったロケット砲の設計を追及しました。ロケット弾をヒレではなく回転によって安定させるよう努力しました。その歴史を通じて悪名高い不正確性は、ヒレの安定性が効果なしとしてすでに確立されていました。イギリスは回転させることで安定させようと試みましたが、その努力は実りませんでした。結果として、ロケット砲撃は 1940

年の大部分の大国によって威嚇兵器と見なされました。ドイツ軍とロシア軍は、別の方法を考えました。ドイツの設計開発チームは、ロケット科学者がすでに知っているロケット砲の正確性についての大きな問題は、ロケット弾本体の推力が頭部を振らせる傾向からもたらされる問題に再度取り組みました。ロケット推進剤を正確に燃やして平準化することでこの問題を克服できましたが、当時のロケットの基準ではありませんでした。むしろ、戦前のロケット砲設計は、低コスト、生産性、手軽さが重視されました。例えば、ヒレで安定させるカチューシャ・ロケット砲は、異なる砲弾生産ロット間で、化学的な安定特性や推進剤の燃焼特性が統一されていませんでした。ロシア軍は、単に数千発のロケット弾で地域を飽和するため、ロケット弾のおぞましい正確性は問題として考慮されませんでした。22 ロ径砲弾の代わりに 132mm 高性能爆薬弾「魔法ドラゴンのパフ」について考えてください。

ドイツ軍は、150mm HE 弾で何百ものロケット投射機を組み合わせることなしに狭い地域を飽和するため、何らかの正確性を求めました。クンマースドルフの設計チームは、1930 年にその仕事を開始し、1941 年までに独創的なシステムを開発していました。次の記述は、確立された信頼性の声明からのものですので、私の個人的な意見ととらないでください。「クンマースドルフの設計者は、搭載弾頭の前方に 26 の捌け口を持つベンチュリ管ロケット燃料を置くことで、新たな革新的解決策を生み出した。これらの捌け口は 14 度傾斜して均一な前方推進力を提供し、ロケットを回転もさせる。前方駆動と回転は、ロケットに破天荒な正確性を生み出し....The Illustrated Encyclopedia of 20<sup>th</sup> Century Weapons and Warfare, 1967」

ネーベルヴェルファーは戦争初期、特にロシアで固定陣地や大部隊に対して大きな成功を収めました。ヴェアマハト（国防軍）は、2 年の間なんとかネーベルヴェルファーを秘密に保ちました。ネーベルヴェルファーの設計が連合軍の認識に欠けた 1 つの理由は、その偽情動的な名称で、英語翻訳名は煙幕投射機 [「smoke thrower」] でした。ネーベルヴェルファー投射機自体は重要ではなく、管を束ねただけでした。特別に設計された円筒形は「秘密」でした。最初のネーベルヴェルファー投射機とヴルフグラナーテ 41 ロケット弾シュプレング [Wurfgratante 41 Spreng projectile] は、1943 年 1 月にスターリングラード近郊で捕獲されました。ロシア軍は、ドイツ設計の含意に無知ではありませんでした。事実、このシステムを評価するため、イギリスの専門家チームをロシアへ派遣するよう要請しました。イギリスはそれに従い、1943 年にバレンツ海を渡ってアルハンゲリスクへチームを送りました。ドイツ設計の革新性にもかかわらず、赤軍は生産が容易な BM-13 カチューシャを数千も生産し続けました。明らかに、ネーベルヴェルファーは、捕獲したロシア軍のカチューシャから「模倣」したのではなく、逆もまた同様で、発射機又は投射機の間には僅かな類似性すらありません。ネーベルヴェルファー投射機とヴルフグラナーテ 41 ロケット弾シュプレングは数年間に亘って開発され、1941 年のバルバロッサ作戦前に編成されました。最初にスターリンのオルガンが捕獲されたのは、1941 年 8 月でした。

ヴルフグラナーテ 41 ロケット弾シュプレングは、どこがそれほど優れていたのでしょうか？ 飛行中に正確性を与えることに加え、砲弾が爆発する際に弾体後方に充填された燃料と覆いは飛散せず、爆風と断片を追加します。この設計は、ヴルフグラナーテ 41 ロケット弾シュプレングを、WWII で他のどのロケット砲よりも殺傷力が高いものにしました。おそらくそれは、戦争中にドイツ軍が発明に成功したこの兵器に多くの兵員に従事させ、数ダースのネーベルヴェルファー旅団を編成した理由です。逆に、非常に劣ったロシア軍の 132mm カチューシャは、誇大に宣伝されました。カチューシャは、ネーベルヴェルファーと比べて甚だ不正確で殺傷性も劣りました。ただし、「カティ」が全く有効でなかったことは意味せず、ネーベルヴェルファー旅団によって獲得された結果に匹敵する成果を挙げました。カチューシャの不正確性についての証拠として、今度ビデオで発射している場面を再生しているとき、ロケット噴煙の星型破裂パターンがそのようになっていないことに注意してください。ロケット弾幕は、比較的小さなエリア内に同時爆発の効果を与える「絨毯爆撃」を意図しました。もしも多数の噴煙が異なる方向を指

していると、ロケット弾は明らかに同じエリア内に着弾しません。噴煙は平行で同じ軌跡を描かねばなりません。今度はヒストリー・チャンネルの番組で、現代の米軍複合ロケット・システムを良く見てください。

合衆国は、ドイツがリードする科学技術に追従しました。終戦の前に、米軍は M16 ロケットのために、ヒレを廃してミサイル後部に噴煙と同じ回転衝撃を与えるために傾けたジェットを使用する回転制御を採用しました。イギリス軍とカナダ軍も、回転制御ロケットの発射に頼りましたが、ねじれた発射レールを持つ発射機の生産によって低い技術アプローチとなりました。これらは、正確性の問題に関する大きな助けにはなりませんでした。

ネーベルヴェルファー旅団は、旧 TAHC の 1969 年版 Anzio に遡ってこれに割当てられた「1」戦闘値からの「デザイン無知」をいまだに被っています。44 年 12 月 16 日、前線の無垢な GI にとって、ネーベルヴェルファーは取るに足らないものではありませんでした。アルデンヌ攻勢に先んじた夜明け前の弾幕で、全力射撃を行った各ネーベルヴェルファー旅団は、10 秒間に 648 発の高性能爆薬弾を良く標定されたコンパクトな目標エリア内に着弾させました。これは中野戦榴弾砲の 110 個中隊が発射する総量に相当します。GI たちが「ミーミー悲鳴を上げる『Screaming Meemies』」又は「うめき声を上げるミニーズ『Moaning Minnies』」と呼んだ爆風と砲声は、これまで西部戦線が未経験だった新たな恐怖でした。

Danny Parker (Battle of the Bulge, Combined Books) からの引用:「ヴェルファーは、相当な火力を有していた。1 個旅団の斉射は、1 分半で目標エリア内に 600 発の高性能爆薬砲弾を着弾させる。このような突然の弾幕 (大抵は不意打ちだった) は致命的で、攻撃前の飽和のために使用され、おそらく他の何よりも効果的だった。」

Hugh Cole (OCMH アルデンヌ攻勢の公刊戦史、652 頁) からの引用:「東部戦線における戦闘の結果として...ドイツ陸軍はヴェルファーに大きな信頼を寄せた...その機動性が大きな特徴で、ドイツ軍はアルデンヌ攻勢中に火力を前方へ運んだ。」

これに関して強調する最終的な注記にもかかわらず、ネーベルヴェルファーの正確性は認識されていません。再び Cole を参照します。「ヴェルファー」が不正確と見なされて防御目的に使用されなかったことは、一般的に理解されています。これは、よくある誤解です。ヴェルファーは、バルジの戦い中に多くの攻勢作戦を停止させるために使用されました。この例は、Cole の 507 頁で見ることができるので要約します:「ヴェテランの米第 5 歩兵師団は、徒歩で疲労した第 212 及び第 276 国民擲弾兵師団を攻撃していた。酷い損害のため、国民擲弾兵師団は統合されており、その平均的な中隊戦力は 110 名から 25 名に落ちていた。第 5 歩兵師団は、戦車と駆逐戦車の支援を受けていた。国民擲弾兵は戦車や駆逐戦車を持たず、対戦車砲は僅かだった。相対的に機動性が劣るドイツ軍国民擲弾兵師団は、吹き飛ばされるに違いなかったが、ドイツ軍はヴェルファーを使用して優勢なアメリカ軍の攻撃を幾度となく粉碎した。」Cole:「ドイツ軍は多くの戦闘でロケット投射機を使用し、アメリカ軍を不安に陥れたことが証明されている。この兵器は...第 LXXX 軍団が持つ従来型砲兵の数を補う以上のもので...その機動性の高さと小さなシルエットは、ザウアー川西の破碎地に非常に適していた。ロケット射撃の率と量は...ヴェテランの第 5 歩兵師団をして、当時この部隊が苦しめられたいかなる戦いよりも激しい砲弾量だったと主張させることになった。」

#### 48.3B ドイツ軍の突破砲兵戦術 [German Breakthrough Artillery Tactics]

##### 48.3B(1)「突破ミュラー」[Durchbruchmüller]

1918 年初頭、ルーデンドルフは、ロシア戦線からの新たな部隊の優越がアメリカの大軍到着によって損なわれる前に戦争に勝たなければならないと認識していました。計算上、兵員のバランスは 1918 年 7 月までに連合軍側へ振れると提言していました。

決定的な成果を達成するため、ドイツ軍は突破兵器又は何らかの新たな戦術方法が必要でした。新兵器は、存在しませんでした。愚かにも、ドイツ軍最高司令部は、戦車が最初に出現した際に過小評価しました。結果として、自軍の戦車 A7V の製造は遅きに失しました。圧力をかけられたとき、ドイツ軍は数ダースの戦車のみを配備でき、一方のイギリス軍とフランス軍は数百両を配備していまし

た。

たまたま、ドイツ陸軍は新たな方法に期待していました。それらの大部分は砲兵の使用に関することで、ゲオルク・ブルクミュラー中佐のアイデアでした。今日、不幸にも、この砲兵将校はほとんど知られていません。1918 年には、彼は世界中で「砲兵の権威」として知られていました。ルーデンドルフにとって、彼は「突破の専門家」でした。彼は駄洒落のドイツ語名でも有名でした。ブルクミュラー [Bruchmüller] の代わりに、「Durchbruchmüller」「突破ミュラー」と訳されました。これは造語ではなく、それを可能にする方法を発明した「突破砲兵」の用語で良く知られる者に冠せられました。それが彼の名称になりました。

ブルクミュラーの技術が最初に使用されたのは、1917 年 9 月のリガに対する奇襲攻撃の成功でした。WWI には極めて稀なことでしたが、ドイツ軍はこの都市を易々と一比較の軽い死傷者数で占領しました。ロシア軍は砲兵優越を持っていましたが、マックス・ホフマン少将が記したように、ブルクミュラーは最少の砲集中から最大限の砲兵効果を生み出すことができました。ロシア戦線の有名な司令官フォン・フーチェル将軍は、ブルクミュラーを西部戦線の砲兵作戦の指揮に置くようルーデンドルフに薦めました。ルーデンドルフは、それを受容しました。

##### 48.3B(2) 砲兵の調定 [Artillery Registration]

ブルクミュラーは、個々の砲兵を調定する大規模な弾幕が奇襲要素の達成を妨げる、それまでの手法を廃しました。ブルクミュラーの実験まで、各砲兵部隊は調定の必要に応じて移動させていました。大規模な調定を廃止するアイデアは、下級砲兵将校エーリヒ・ブルコフスキ大尉によって提案されました。この若者は、個別の砲調定の代わりに、数学的に距離を予測する方法を提案しました。大部分の上官たちは、彼の想像力を嘲笑しました。ブルクミュラーは、嘲笑しませんでした！

ブルクミュラー中將がブルコフスキのアイデアを採用する以前は、各砲兵部隊は操作員によって個別に調定されていたため、命令が来たときに特定目標を撃てませんでした。特に長射程では、急速な射撃シフトは不可能でした。もしもある砲が、目標に命中させるために必要なデータで調定されていなければ、その目標に射撃できません。調定のため、各砲は一定の方位 (方向) に一定の仰角で、一定の砲弾 (通常は色付の煙幕弾) を発射しました。次いで、観測者は効力を望む地点を比較して効力地点を調定します。射撃調定将校はデータを比較し、次いで射撃解決を変更します。この手法は、砲操作員が照準している地点に当てられるまで、試行錯誤して繰り返されました。いったんこれが発生すると、その目標についての調定を達成しました。

何千門もの砲を調定して確固とする、WWI の大規模攻勢を導く手順を描いてみましょう。これは、敵に大攻勢が来ることを警告しました！ 敵は予想される攻撃近くの前線後方に予備を集めるため、たとえ攻撃側が破壊された地域を占領しても突破はできないでしょう。例えば、イギリス軍は、パッシェンデール攻勢の前に、3,000 門の砲で 13 日間休みなしに射撃しました。この壮観な砲撃は、何も達成しませんでした。砲の調定前にドイツ軍に警告したため、砲撃が失敗したのです。ドイツ軍は、危険地域の外に予備を集結させて反撃に備えました。パッシェンデールの努力は、イギリス兵の多くの生命を代償に悲惨な失敗となりました。

ブルクミュラーが成し遂げたのは、前線に到着する前に各砲の射撃特性によって記録する手順を発展させたことです。これは、集合地域で開始しました。同じ生産ラインからの砲は同じ部隊に配備し、類似した正確性を持って調定できるかチェックしたのが第一です。各砲の射撃特性は後方で判定され、最終的に同じ射撃特性を持つ砲は同じ大隊に配備されました。それは、砲兵部隊全体を「調定」するための射撃で、データ体系を確立するために数門の砲のみで済みました。例えば、1918 年 3 月 21 日のドイツ軍大攻勢の前、史上最大の砲兵弾幕となったドイツ軍の 6,588 門の砲が「40 マイルのホロコースト」を導くために準備されていることを、イギリス軍は予め警告されていませんでした。



#### 48.3B(3) 据砲 [Artillery Emplacement]

ブルクミュラーが「40 マイルのホロコースト」を解き放つ前、参加した数千門の砲を据えつけなければなりません。砲は射撃するときに飛び跳ねず、照準（砲列）を失わないよう正しく据付なければなりません。ドイツ軍は、7,000 門の砲を正しく据えつけるよりも、40 マイルの前線にある 67 個師団を隠す方が遥かに容易であることに気づきました。兵員と物資の集結は完全に夜間に行われ、砲兵の活動についての機密は、最も厚いヴェールが引かれました。砲は 3 段階で配備され、その車輪の跡は夜明け前に偽装されるか又は消し去られました。

最初の段階中、ブルクミュラーは完全に射撃位置を隠せる砲を据付ました。第二段階中、彼は一時的に砲を最終射撃位置の近くに完全に隠しました。第二段階の砲は、3 月 20 日の夜に据えつけられることになります。第三段階は、巨大なために射撃位置の近くに隠せず、遙か後方にあった砲の据付けを含みました。第一段階の砲の大部分と第二段階及び第三段階の全ての砲は、事前の「調定」なしで射撃しました。

#### 48.3B(4) ブルクミュラー戦術 [The Bruchmüller Technique]

ブルクミュラーのテクニックは、砲兵弾幕戦術の量的飛躍でした。各砲は、攻撃の正確な計画に従って射撃しました。これは、1918 年よりも前の大規模攻勢の、典型的な「総弾幕射撃」ではありませんでした。6,588 門のそれぞれが、合計で 300 分間続く 7 つの異なる弾幕期間に特定目標を射撃しました。これらは、戦闘ゾーン内の敵兵員又は設備の全てを混乱、破壊、麻痺させることを意図した、複雑な計画に従っていました。ドイツ軍は多大な時間を要求し、目標ゾーン内の各重要目標の位置を正確に識別するため、多くの時間を割きました。

以下は、イギリスの歴史家 Barrie Pitt によって与えられた、1918 年 3 月 21 日の砲兵ホロコーストの描写です。：「何トンもの鋼鉄と高性能爆薬が、打ち砕かれた前方配置部隊と戦闘ゾーンの上に降り注いだ。聴力を失った兵士たちは塹壕内にうずくまり、又は目がくらんで支配地点に向かってよろよろ歩いて行った...戦闘ゾーン内では、射撃の質量の下で、砲の位置、砲兵中隊と司令部、電話交換と道路交差点が崩壊又は分離した。弾薬集積所は吹き飛び、炎と破壊のきのこ雲が立ち昇った。骨折って敷設した信号ワイヤーは引き裂かれ、キャノン砲は信じられないほど大量の金属を降り注いだ。...重砲弾が兵舎、砲兵、馬、ハイレット、後方地域内の救護所、要塞、無線設備、発電設備、連絡壕で炸裂した。それは、ドイツ軍が非常に正確さで目標の位置をマークしていた証拠だった。戦線のそこかしこにせき、嘔吐、失明した兵士たちが集まった。...ときには、激しい射撃が衝撃波をもたらし...塹壕内に竄った機関銃座は抹消され、鉄条網は吹き飛んで四散し、兵士たちは粉々になった。」(Marshal Cavendish Illustrated Encyclopedia of WWI. Volume 9.)

上記の 280 分後、砲兵弾幕が進行中だった間に、特別に訓練された突撃隊が現れて前方へ進みました。これは浸透戦術の始まりで、移動弾幕射撃又は徐々に進行する弾幕射撃を使用しました。この時点で、全ての軽、中、重砲は、突撃隊に直接敵対する敵歩兵に射撃をシフトしました。ドイツ軍歩兵がこの弾幕に接近するに連れて、信号ロケット弾が発射され、その四分円内を射撃している砲手が射撃解決を変更し、弾幕は 200 から 300 ヤード敵歩兵戦線内深くに落とされます。この手順は、強襲が進捗するに連れて繰り返されました。因みに、前進している突撃隊によって発射されたロケット信号弾は、史上初めて前線の歩兵によって砲兵射撃の指示が与えられたものです。

ブルクミュラー戦術は、機能しました。西部戦線における数年間の膠着後、1918 年 3 月か 6 月の 4 つの大攻勢で、ドイツ軍は目覚ましい成果を獲得しました。ただし、ルーデンドルフは時間を使い尽くし、時間は各攻勢の前にブルクミュラーが要求した決定的な要素でした。骨身を惜しまない計画、砲兵配備、大量の兵站は多くの時間を必要とします。数日間、ヤンキーと戦車が潮の流れを変えることになりました。ブルクミュラーの到着は、数ヶ月遅かったのです。

#### 48.3B(5) Topic Cop Alert

なぜ私が WWI の砲兵戦術についてだらだら述べてきたか、という問いが心に去来していました。以前、この話題について私から聴いた何人かのゲーム・デザイナーたちは、馬鹿げたこととして私を失望させました！ 彼らは、これは筋金入りのバルジ愛好家にとつては、良い歴史的背景資料であると考えました。ご承知のように、バルジの戦いにおける初期のドイツ軍の成功について、ブルクミュラーは間接的な影響を与えました。

#### 48.3 B(6) ブルクミュラーとアルデンヌ攻勢

[Bruchmüller and the Ardennes Offensive]

据砲：Cole、48、144 頁「The Ludendorff Offensive of March 1918 は、完全に検知を免れた大攻勢準備の輝かしい見本だった。ルーデンドルフの計画者たち（すなわち、ブルクミュラー）によって入念に準備された砲兵の支援と移動についての 1918 年計画は、アルデンヌの砲兵増強において単純にコピーされた。12 月 5 日から 10 日にかけて、ドイツ軍の砲兵は攻撃を支援できる、慎重に偽装された位置に前進した。」

砲兵の調定：ルーデンドルフ攻勢や 1940 年のときと同様、砲兵の調停はほとんどあるいは全くありませんでした。Cole、656 頁「12 月 16 日のドイツ軍による砲兵兵器の使用は、1918 年の大攻勢における砲兵準備のカーボン・コピーだった。」Cole からの多数の引用で、攻勢開始時のドイツ軍砲撃において最も成功した側面は、アメリカ軍の連絡網をほぼ完全に混乱させたことです。事実、攻勢開始時にアメリカ軍の連絡網を初期目標にしたことは、12 月 16 日にアメリカ軍の砲兵兵器が効果的に機能することに失敗した大きな要因でした (658 頁)。情報伝達は、攻勢開始時におけるブルクミュラーの主要目標の 1 つで、射撃、移動、連絡、生存の 4 つの実質的な戦闘効果の 1 つを除去する結果はそっくり同じでした。

ブルクミュラーの戦法はアルデンヌで有効に機能しましたが、1918 年のときほどの成功ではありませんでした。1944 年には、ブルクミュラーの戦法から完全な潜在能力を獲得することを妨げる大きな差異がありました。以下に 3 つの点を指摘します。：

**第 1 の点一弾薬** ブルクミュラー戦術の適用には、4 基本弾薬備蓄が要求されました。ただし、輸送問題、特にアルデンヌ攻勢前の思いがけないアメリカ軍の攻撃、ドイツ軍の機密保持のため、12 月 16 日の前線には平均 1.5 基本備蓄のみがありました。ドイツ軍の補給網は、弾薬備蓄を攻撃に間に合うよう前方へ容易に移動できたはずですが、ドイツ軍の兵站組織は攻撃が開始された後になるまで知らされていませんでした。ドイツ軍内部の機密保持は、兵站担当者たちがライン河を保持する防御的戦闘を計画していたため、ライン河の西へ補給を移動させる補給システムを拒みました。初期の弾薬不足の結果として、詳細なブルクミュラーの砲撃計画は、要求された 300 分間に対して 105 分（いくつかの地域はそれ未満）に短縮されました。

**第 2 の点一集中** ドイツ軍はアルデンヌでの攻撃を 1,900 の砲兵、合計 5,554 本の砲身で開始しましたが、ブルクミュラー戦術の集中と同等の集中ではありませんでした。ルーデンドルフは、1918 年の大攻勢中に前線の 11 メートル毎に 1 門—ほぼハブ間—を持ちました。反対に、アルデンヌでは、集中は 45 メートル毎に 1 門でした。それでも、ドイツ軍の集中は、バルジの戦いの間は優越しました。パットン第 3 軍は、アルデンヌでの作戦中に砲兵射撃で全体死傷者の 60%を出しました。—これは、平均よりも 10%高いものでした (Cole、656 頁)。

**第 3 の点一浸透** 前に述べたごとく、ブルクミュラー戦術は、浸透戦術、又は逆もまた真なりですが、射撃計画の最終段階で突撃隊が移動弾幕射撃の後に続くことです。アルデンヌのドイツ軍擲弾兵にとって不幸なことに、フォン・マンツィフェルのみがこの戦術に激しく執着していました。Cole によって引用された多数の例で、第 5 装甲軍の擲弾兵たちは、実際には弾幕中にアメリカ軍の戦線に突撃しました。多くの場合、これらは初期の弾幕中にアメリカ軍陣地の内部又は背後でした (Cole、173 頁)。反対に、第 99 歩兵師団を攻撃している擲弾兵たちは、初期弾幕が止んでから 25 分後になるまで姿を現し

ませんでした。おそらく、これは中央部で突撃した歩兵が成功し、北部のそれが失敗した理由の1つです。

#### 48.3C ドイツ軍砲兵の編成 [German Artillery Organization]

ドイツ軍の師団砲兵アセットは、近代砲兵体系の全要素を含みました。各砲兵大隊に付属した信号セクションは、連隊砲兵情報伝達網に組み込まれました。砲兵連隊司令部は、師団幕僚と連絡を取りました。砲兵連隊指揮官は、指揮を執っている将軍に直接報告しました。

ドイツ軍の軍団砲兵ユニットも、近代砲兵体系の全要素を含みました。Designer Edition Bitter Woods では、戦闘序列内にドイツ軍国民砲兵軍団が登場します。—これらは、アメリカ軍の軍団砲兵グループに相当します。ドイツ軍の国民砲兵軍団の信号分遣隊は、その固有の信号セクションを介して、近くの師団砲兵連隊と相互連携しました。ドイツ軍の軍団／師団砲兵の情報伝達システムは、信頼性が高く有効でしたが、柔軟性はありませんでした。情報は、手堅い砲兵ドクトリンの高い確度で、指揮系統の上下の繋がりに従って伝わりました。国民砲兵軍団とその付属砲兵大隊は、ドイツ軍の装甲又は歩兵軍団を支援するために配備されました。通常は、装甲又は歩兵軍団が配備された軍、又は任務に留まる限りこれらの配備は変更されませんでした。

#### 48.3D ドイツ軍国民砲兵軍団の戦闘序列

[German Volks Artillery Corps Order of Battle]

アルデンヌ攻勢についてのドイツ軍国民砲兵軍団の戦闘序列は印象的でしたが、前に述べたごとく、不十分な弾薬供給に妨げられました。結果的に、ドイツ軍の装甲及び歩兵軍団の司令官は、従来型のドイツ軍砲兵部隊から大量の自動車アセットを調達しました。したがって、Designer Edition Bitter Woods では、ドイツ軍の従来型砲兵ユニットの移動率は低く抑えられています。他方、ネーベルヴェルファ旅団は、SS 師団と同様に、攻勢のために特別な優先度が与えられていました。16 日 AM には、ヴェルファ旅団の大部分は完全に自動車化され、供給されていました。

以下は、ドイツ軍国民砲兵軍団の戦闘序列についての主要な情報です。最初の3つの資料は、合衆国公文書館のマイクロフィルムからの生データです。:

*Die Ardennen-Offensive 1944/45 : Ein Beispiel für die Kriegführung Hitlers*, Hermann Jung, Musterschmidt-Verl. Göttingen, 1971, German *Order of Battle, Panzers and Artillery*; George naffziger, Greenville Books, 1955 : *The Ardennes Offensive. Note on German and US Artillery*; National Archives Manuscript R-100. Charles Von Lutichau, 1957 : *Handbook on German Military Forces*, US War Dept. TM-E-30-451, 15 March 1945 ; *German Artillery of World War II*, Ian Hogg, Purnell Book, 1975.

(1) ドイツ軍国民砲兵軍団 402、405、401、406、408 : CF5、射程 4

18 FK 40 (Pak 40)  
18 1FH 18/40  
12 sFH 396 (r)  
12 KH 433 (r)  
12 Kan 10cm

(2) ドイツ軍国民砲兵軍団 388 : CF6、射程 4

18 FK 40 (PAK 40)  
18 FK 43 (88)  
18 1FH 18/40  
12 sFH 396 (r)  
12 sFH 18  
3 Kan 17cm  
6 Mrs 21cm

(3) ドイツ軍国民砲兵軍団 766 : CF7、射程 4

18 FK 40 (PaK 40)  
18 1FH 18/40  
36 sFH 18  
3 Kan 17cm  
6 Mrs 21cm

(4) ドイツ軍国民砲兵軍団 410 : CF6、射程 4

18 FK 43 (88)  
36 1FH 18/40  
12 sFH 396 (r)  
12 KH 433 (r)  
27 WGr 42 (21 cm werfer)

(5) ドイツ軍ネーベルヴェルファ旅団 4 : CF6

72 WGr 41 (15cm werfer)  
36 WGr 42 (21cm werfer)

(6) ドイツ軍ネーベルヴェルファ旅団 9 : CF8

70 WGr 41 (15cm werfer)  
54 WGr 42 (21cm werfer)

(7) ドイツ軍ネーベルヴェルファ旅団 15、16、17 : CF7

72 WGr 41 (15cm werfer)  
18 WGr 42 (21cm werfer)  
18 WKrS42 (30cm werfer)

(8) ドイツ軍ネーベルヴェルファ旅団 7 : CF8

88 WGr 41 (15cm werfer)  
18 WGr 42 (21cm werfer)  
18 WKrS42 (30cm werfer)

(9) ドイツ軍ネーベルヴェルファ旅団 8、18 : CF9

70 WGr 41 (15cm werfer)  
18 WGr 42 (21cm werfer)  
36 WKrS42 (30cm werfer)

(10) ドイツ第6装甲軍砲兵 : CF5、射程 4

Heeres Arty Btry 1100	3 Möser 30.5 cm
Heeres Arty Btry 1098	3 Möser 35.5 cm
Heeres Arty Btry 1120	3 Möser 22 cm (f)
Heeres Arty Btry 428	3 Möser 54 cm
Festung Arty Btry 1123	2 K3/1 24cm

(11) ドイツ第5装甲軍砲兵 : CF6、射程 4

Heeres Arty Bn 4609sFH18	
Heeres Arty Btry 1094	6 Kanonen 12.8 cm
Heeres Arty Btry 1095	6 Kanonen 12.8 cm
Heeres Arty Btry 1119	3 Möser 30.5 cm
Heeres Arty Btry 1099	3 Möser 35.5 cm
Heeres Arty Btry 1121	3 Möser 22 cm (f)
Heeres Arty Btry 25/975	4 K15.5cm 425 (f)

(12) ドイツ第7軍砲兵 : CF3、射程 7

Heeres Arty Btry 1092	6 Kanonen 12.8 cm
Heeres Arty Btry 1093	6 Kanonen 12.8 cm
Heeres Arty Btry 1124	6 Kanonen 12.8 cm
Heeres Arty Btry 1125	6 Kanonen 12.8 cm
Heeres Arty Btry 1125	1 Möser 28 cm、1 Möser 22 cm
Heeres Arty Btry 600	2 Kanonen 52 21 cm

#### 48.4 アメリカ軍の砲兵 [American Artillery]

##### 48.4A タイム・オン・ターゲット [Time on Target]

ブルクミュラー戦術の弱点は、調整と計画に莫大な時間の消費を要求されることでした。この戦術の威力は、予め計画された多数の分散した位置から数千の砲弾を、極めて短時間に警告なしで撃ち込むことにありました。

アメリカ軍は、彼らが WWI のドイツ軍砲兵実践から学んだ全てを取り込み、通常は4個砲兵大隊のみを含むイギリス軍の標準的な連隊集中を実証しました。それは、タイム・オン・ターゲット又は TOT と呼ばれました。

バレンジの戦いの初日中、アメリカ軍砲兵は蹂躪、逃走、連絡途絶状態でした。ただし、彼らは間もなく回復し、別の日にはベストを尽くしました。アメリカ軍砲兵は、迅速に据砲して連絡を確立できたため、再び高速かつ正確に射撃することができました。

アメリカ軍の情報伝達アセットは、地味に第二次世界大戦中の全ての他国よりも優れていました。アメリカ軍の軍団砲兵グループは、平均 13 個大隊を統率し、その全てが瞬時にタイム・オン・ターゲ



ット任務に統合できました。正確な訓練、計画、優れた情報伝達網により、TOT で射撃するために多くの時間は必要としませんでした。したがって、アメリカ軍におけるブルクニュー戦術とイギリス軍標準連隊集中の適用は、分散した多数の位置から数秒間に警告なしで判別位置を急速にカバーする、数百発の砲弾で敵に衝撃を与え又は撃破しました。連携が要求されました。：グループと師団射撃指揮中枢は、目標整合の識別、射程計算、方位角、各大隊の砲についての飛行時間を計算しなければなりませんでした。全砲からの砲弾を同時に着弾させるため、最も離れた砲兵中隊はより近い目標地域を射撃するそれよりも、数秒前に射撃しなければなりませんでした。

#### 48.4B アメリカ軍砲兵の編成 [American Artillery Organization]

伝説的なアメリカ軍砲兵の剛勇史を考えてください。植民地が独立立ちすることを決めて以来、イギリスの砲兵は疑いなく世界最速で最も正確に射撃しました。1812 年戦争までに、アメリカ軍は特に海軍の領域で、前の教師から看板を奪いました。イギリス軍のカーティス少佐は、以下のように述べました。「イギリスの砲手たちは、素早く正確に射撃する。なぜならば、それは彼らの義務だからだ。一方、アメリカ人たちは楽しんでやっている。」

30 年後、アメリカ軍の砲兵戦術は、メキシコ戦争の最初の激しい戦いで米軍に成功をもたらしました。ヨーロッパ列強は、ザカリー・テイラー指揮下の 3,500 人の寄せ集め軍隊は、サンタ・アナの 20,000 人のベテラン軍隊に対して持ちこたえられないと予測しました。アメリカ軍は戦力で圧倒され、メキシコ軍はナポレオンの類型的な騎兵に因んで優秀な長槍騎兵を編成していました。しかし、アメリカ軍は、巨大だが鈍重なメキシコ軍歩兵組織に対して、破滅的な結果をもたらした「空飛ぶ砲兵」戦術を採用しました。各国はすぐにドイツ軍の野戦砲兵編成と戦術が他の国よりも遥かに優れていた 1918 年に先行して、アメリカ軍の編成と戦術をコピーしました。ついで、第一次世界大戦に続く 10 年間に、米陸軍の砲兵編成はドイツ軍のモデルに見え始めました。Cole は、652 頁で述べています。「アメリカ軍とドイツ軍の師団砲兵は非常に似ており、同じ発展形態に従ってきた。」WWII には、アメリカ軍の師団及び軍団砲兵の体系はドイツ軍のそれと非常に似ており、アメリカ軍は類似した軍団番号名称を使用しました。バルジの戦い中の軍団砲兵番号に注目してください。モンシャウ近郊で開始するアメリカ軍第 406 野戦砲兵グループと、ヴィアンデン近郊にドイツ軍第 406 国民砲兵軍団があります。中央では、第 402 野戦砲兵グループと第 402 国民砲兵軍団が互いに対峙しました。

#### 48.4C アメリカ軍砲兵射撃指揮所 (FDC)

[The American Artillery Fire Direction Center]

48.4C (1) GFT ドイツ軍は、師団と軍団レベルで FDC に相当するものを有しましたが、類似はここまでです。各米軍大隊が FDC を持ちました。これは、1940 年に射表計算尺 (GFT) を発明したアボット・バーンズ大尉の努力によって可能となりました。アメリカ軍砲兵大隊の射撃解決は、熟練した技能や数学者である必要はありませんでした。

48.4C (2) グラスホッパー [The Grasshopper] アメリカ軍の FDC システムは、他のどの国よりも遥かに優れた前方観測アセットを有しました。米軍野戦砲兵は、独自の航空部隊を持ちました。これを測り知るのは困難と思われますが、各米軍野戦砲兵大隊は 2 機の L4 パイパー・カブ・グラスホッパーから成る、独自の観測組織 (OP) を有しました。米軍は、これらの L4 パイパー・カブを約 7,000 機装備しました。正規の野戦砲兵前進観測兵は、L4 航空機で作戦するよう訓練されました。グラスホッパーは武装、装甲がなく、速度が僅か 80MPH だったので脆弱には違いなかったのですが、そうではありませんでした！ ドイツ軍は、グラスホッパーが正確で大規模な報復射撃を招くことをすぐに学習しました。ドイツ軍は、アメリカ軍の戦闘爆撃機を恐れたのと同様に、航空観測を恐れしました。航空観測を射撃すると、もっと悪いことが続くのを保証しました。もちろん、航空観測は優れた情報伝達体系を要求されました。

48.4C (3) 周波数変更 (FM) 無線機 [Frequency Modulated (FM) Radio] 合衆国のみが、第二次世界大戦中に FM 無線機ネットワークを活用しま

した。FM はいくつかの不具合を持ちましたが、利点が遥かに勝りました。FM 無線機は小型軽量、操作が容易で、音楽愛好者が知ることく、振幅調整 (AM) によって経験された静止や干渉から解放されています。このシステムは 1942 年までに採用され、10,000 を超える FM 無線機が供給されました。各部署がこれを使用し、「混線状態」が頻発することを防ぎました。FM 無線機を過度に採用した砲兵情報伝達ネットワークは、航空観測での使用を可能にし、「Net 上で TOT を可能にする」砲兵兵器全体を保持しました。

#### 48.4D アメリカ軍の機動性と柔軟性 [American Mobility and Flexibility]

ドイツ軍とアメリカ軍の砲兵戦力の間で決定的な違いは、アメリカ軍砲兵大隊の大きな柔軟性と機動性にありました。無限の弾薬供給、FDC、航空観測、FM 無線機網に加え、各アメリカ軍砲兵大隊は自動車化されていました。これらのアセットの全ては、アメリカ軍砲兵が「うろついているラインバッカー」のように前線背後を動き回ることを認めました。通常は 1 個軍団に付属したドイツ軍砲兵大隊と異なり、アメリカ軍砲兵大隊は必要に応じて日毎に前後ヘシフトされました。例えば、1944 年 12 月 16 日から 12 月 31 日の間、バルジで闘った合計 19 個大隊が、少なくとも 3 つの異なる上級司令部の下にあり、合計 15 個大隊が少なくとも 2 つの異なる上級司令部の下にありました。この編成組み換えは、作戦上有害ではありませんでした。なぜならば、「閃光と爆発」探知部隊による探知を避けるため、頻繁に移動するよう訓練されていたからです。米軍がアルデンス攻勢の重大性を認識して間もなく、波をせき止める手助けのため砲兵大隊は迅速に転換されました。

#### 48.4E アメリカ軍野戦方兵グループの戦闘序列

[American Field Artillery Group Order of Battle]

アメリカ軍の軍団砲兵の戦闘序列についての主要な情報源は、以下のとおりです。：

The World War II US Army Corps Histories, III Corps, V Corps, VII Corps, VIII Corps, XII Corps, and XVIII Corps : *The Field Artillery Journal* May, 1945 – Volume 35-5, “Artillery in the Ardennes”, Lt. Col. Joseph Reeves : *Order of Battle*. US Army, WWII, Shelby Stanton.

##### (1) 米第V軍団砲兵：

(a) 16 日 AM、第 406 野戦砲兵グループ：CF 5、射程 4  
第 186 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12  
第 955 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12  
第 941 野戦砲兵大隊、4.5 インチ砲、各 12  
第 200 野戦砲兵大隊、155mm 砲、各 8 (一Btry B)  
第 272 野戦砲兵大隊 240mm 榴弾砲、各 2 (Btry C)

(b) 17 日 AM、第 187 野戦砲兵グループ：CF 5、射程 4  
第 187 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12  
第 953 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

(c) 18 日 AM、第 190 野戦砲兵グループ：CF 5、射程 5  
第 190 野戦砲兵大隊、155mm 砲、各 12  
第 997 野戦砲兵大隊、8 インチ榴弾砲、各 12

(d) 第 V 軍団 16 日 AM マップ上の独立野戦砲兵大隊—第 406、第 187、第 190 へ組み込み  
第 62 機甲 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 18  
第 196 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12  
第 200 野戦砲兵大隊、155mm 砲、各 4 (Btry B)  
第 987 野戦砲兵大隊、155mm 砲、各 8 (一Btry B)

(e) 米第V軍団独立 野戦砲兵大隊増援第 187 と第 190 へ組み込み  
第 76 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12  
第 987 野戦砲兵大隊、155mm 砲、各 4 (Btry B)

##### (2) 米第VIII軍団砲兵

第 561 野戦砲兵大隊、155mm 砲、各 12  
第 578 野戦砲兵大隊、8 インチ榴弾砲、各 12  
第 740 野戦砲兵大隊、8 インチ榴弾砲、各 12  
第 559 野戦砲兵大隊、155mm 砲、各 8 (一Btry C)

(b) 16 日 AM、第 174 野戦砲兵グループ：CF 5、射程 4

第 965 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 969 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 770 野戦砲兵大隊、4.5 インチ砲、各 12

(c) 16 日 AM、第 333 野戦砲兵グループ（色付）：CF 4、射程 4

第 333 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 771 野戦砲兵大隊、4.5 インチ砲、各 12

(d) 17 日 AM、第 422 野戦砲兵グループ：CF 3、射程 4

第 81 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 174 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 559 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 4 (Btry C)

(e) 米第VIII軍団 16 日 AM マップ上の独立野戦砲兵大隊—第 174 と第 333—へ組み込み

第 275 機甲野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 18

第 687 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12

第 176 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12

### (3) 米第XVIII軍団砲兵：

(a) 21 日 AM、第 179 野戦砲兵グループ、CF6、射程 7

第 266 野戦砲兵大隊、240mm 榴弾砲、各 6

第 551 野戦砲兵大隊、240mm 榴弾砲、各 6

第 153 野戦砲兵大隊、8 インチ砲、各 6

第 268 野戦砲兵大隊、8 インチ砲、各 6

(b) 24 日 AM、第 188 野戦砲兵グループ：CF 4、射程 4。第VII軍団から XVIII 軍団の下に置かれた。

第 957 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 980 野戦砲兵大隊、155mm 砲、各 12

第 172 野戦砲兵大隊、4.5 インチ砲、各 12

(c) 戦闘地域に進出した際に第 179 と第 188 に組み込まれた米軍独立野戦砲兵大隊。

第 400 機甲野戦砲兵大隊、105 榴弾砲、各 18

第 83 機甲野戦砲兵大隊、105 榴弾砲、各 18

第 254 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 240 野戦砲兵大隊、155mm 砲、各 12

### (4) 米第VII軍団砲兵：

(a) 23 日 AM、第 142 野戦砲兵グループ：CF 5、射程 4

第 87 機甲野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 18

第 193 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12

第 951 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12

(b) 24 日 AM、第 18 野戦砲兵グループ：CF 5、射程 4

第 183 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12

第 188 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12

第 981 野戦砲兵大隊、155mm 砲、各 12

第 195 野戦砲兵大隊、8 インチ榴弾砲、各 12

### (5) 米第III軍団砲兵：

(a) 22 日 AM、第 193 野戦砲兵グループ：CF 7、射程 4

第 253 機甲野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 18

第 696 機甲野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 18

第 177 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 949 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

(b) 22 日 AM、第 203 野戦砲兵グループ：CF 7、射程 4

第 179 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 731 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 191 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 274 機甲野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 18

(c) 23 日 AM、第 183 野戦砲兵グループ：CF 7、射程 4。第 XII 軍団から第III軍団へ。

第 695 機甲野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 18

第 776 (sic) 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 334 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12 (87 ID)

第 336 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12 (87 ID)

### (6) 米第XII軍団砲兵：

(a) 24 日 AM、第 177 野戦砲兵グループ：CF 5、射程 4

第 255 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12

第 215 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 775 野戦砲兵大隊、4.5 インチ砲、各 12

(b) 24 日 AM、第 182 野戦砲兵グループ：CF 5、射程 4

第 802 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12

第 945 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 974 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

(c) 第 177 と第 182 に組み込まれた増援の米軍独立野戦砲兵大隊。

第 276 機甲野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 18

第 244 野戦砲兵大隊（ドイツ製 88mm、100mm、155mm）、（フランス製 155mm）

(d) 26 日 AM、第 404 野戦砲兵グループ：CF 3、射程 4

第 512 野戦砲兵大隊、105mm 榴弾砲、各 12

第 752 野戦砲兵大隊、155mm 榴弾砲、各 12

第 273 野戦砲兵大隊、155mm 砲、各 12

## 48.5 概要 [Summary]

ドイツ軍は、砲、情報伝達、前方観測、射撃指揮、機動性、兵站の全てにおけるアメリカ軍の優勢を良く知っていました。彼らは、連合国空軍の航空優勢を無効にする計画を持っていました。—悪天候です。彼らは、アメリカ軍の砲兵優越を無効にする計画も持ちました。—アメリカ軍の後背地域に素早く前進して砲兵を蹂躪することです。どちらの計画も成功しませんでした。



## 参考文献 [Bibliography]

- Allied Artillery of World War II*, Ian Hogg, Crowood Pres, 1998.
- Artillery of the World*, Brassey Publications Limited, 1971
- Barrage, The Guns in Action*, Ian Hogg, The Ballantine Illustrated History of World War II, 1970.
- Battle of the Bulge*, Dunno S. Parker, Combined Books, 1991.
- Die Ardennen-Offensive 1944/45 : Ein Beispiel für die Kriegführung Hitlers*, Hermann Jung. Musterschmidt-Verl. Göttingen, 1971.
- Field Artillery Journal May 1945—Volume 35, No 5 “Artillery in the Ardennes”*, Lt. Col. Joseph Reeves.
- Field Artillery Journal Dec 1945—Volume 35, No 12 “Bastogne Artillery Classic”*, Lt. Col. Frank Jesse.
- German Artillery of World War II*, Ian Hogg, Purnell Books, 1975.
- German Order of battle, Panzers and Artillery*, George Nafziger, Greenville Books, 1995.
- Handbook on German Military Forces*, US War Dept. TM-E 30-451, 15 March 1945.
- Illustrated Encyclopedia of 20<sup>th</sup> Century Weapons and Warfare*, 1967.
- Marshall Cavendish Illustrated Encyclopedia of WWI*.
- Order of Battle, US Army, WWII*, Shelby Stanton, Presidio Press, 1991.
- Standard Guide to US World War II Tanks and Artillery*, Knrad Schreier, 1944.
- The Ardenes Offensive, Notes on German and US Artillery, National Archives Manuscript R-100, Charles von Luttichn, 1957.
- The Guns, 1943-45*, Ian Hogg, Ballantine Books, 1970.
- The US Army in World War II, European Theatre of Operations, The Ardennes : Battle of the Bulge*, Hugu Cole. OCMH, 1965.
- The US Army in World War II*, US Army Crps Histories : III Corp, V Corps, VII Corps, VIII Corps, XII Corps and XVIII Corps.

